

厚生労働省科学研究費補助金 がん対策推進総合研究事業

がん研究に患者・市民参画を実現するための患者・市民に対する
教育カリキュラム・プログラムの開発に関する研究

令和6年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 有賀 悦子

令和7(2025)年 5月

目次

I. 総括研究報告書

がん研究に患者・市民参画を実現するための患者・市民に対する教育カリキュラム・プログラムの開発に関する研究	1
	帝京大学医学部緩和医療学講座 有賀 悦子
資料1：動画（Webラーニング）一覧	
資料2：カリキュラム・コードを適応させた専門研修（対面研修）	
資料2-1 第83回日本癌学会学術総会 SSPプログラム	
資料2-2 第62回日本癌治療学会学術集会 PALプログラム	
資料2-3 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会 PAP	
資料2-4 第9回日本サポーターケア学会学術集会	
資料2-5 研究班主催 みんなで創る！がん研究のための患者・市民参画研修会	
資料3：カリキュラムを用いた研修会の普及動画の掲載	
資料4：動画（Webラーニング）評価	
資料5：対面研修会の参加者評価	

II. 分担研究報告書

がん研究に患者・市民が参画するための教育カリキュラム作成とその効果検証および評価に関する研究	11
	群馬大学情報学部 片山 佳代子
資料4（再掲）：カリキュラム第2版による自学者用コンテンツ（動画）の評価	
資料5（再掲）：研究班主催の初の患者・市民参画を学ぶための対面研修会の参加者評価	
がん研究に患者・市民が参画するための教育カリキュラム第2版の評価と対面研修プログラムの開発	19
	九州大学病院別府病院 三森功士 公益財団法人がん研究会 藤田直也
がん研究に患者・市民が参画するための教育カリキュラム第2版の評価と対面研修プログラムの開発	21
	大阪大学大学院医学系研究科消化器外科学 江口英利 日本医科大学武蔵小杉病院腫瘍内科 勝俣範之 北里大学医学部新世紀医療開発センター横断的医療領域開発部門臨床腫瘍学 佐々木治一郎
資料6：JSCO-PAPとJSMO-PALの比較	

III. 研究成果の刊行に関する一覧表	25
---------------------	----

がん研究に患者・市民参画を実現するための患者・市民に対する
教育カリキュラム・プログラムの開発に関する研究

研究代表者 有賀悦子 帝京大学医学部緩和医療学講座 主任教授

研究要旨：患者・市民ががん研究に参画することを実現させるための効果的な教育方法の開発を目的として患者・市民に期待される能力・資質（コンピテンシー）、育成目標（アウトカム）をデルファイ法で明らかにし、体系的カリキュラムおよびそれに基づいた教育方法の開発を目的とした開発研究の最終年度である。基礎研修の動画（Web ラーニング）は23本に字幕を挿入し、公開した。各コースに理解度確認クイズ、プログラム評価アンケートを設置し、調査を行った。114名の評価データを検証したところ【内容】、【表現の適切さ】、【正確さ】では約91%が理解できたと回答が得られた。専門研修では、対面研修会を4学術団体および研究班主催で開催した。班主催研修会では96.4%が患者・市民参画への理解が進んだと回答を認め、企画側からのフィードバックで課題があげられたが、次に活かせる有用な知見を得ることができた。研修プログラムは、いずれも高い研修効果を認め、参画を推進するために有用であることが示された。また、カリキュラム・コードは良好に機能し、プログラムに適応できることが確認され、カリキュラム第2版を最終版とした。日本癌治療学会会員に対する患者・市民参画の意識調査では、「患者・市民参画の言葉も内容も知っている」と回答した者は令和5年17.3%、令和6年25.1%と少しずつ広がっていることがわかった。

研究分担者

江口英利
大阪大学大学院医学系研究科・消化器外科学1
教授
勝俣範之
日本医科大学武蔵小杉病院腫瘍内科 教授
三森功士
九州大学病院 教授
大滝純司
東京医科大学医学教育学分野 兼任教授
渡邊清高
帝京大学医学部内科学講座（腫瘍内科）教授
片山佳代子
群馬大学情報学部 准教授
神奈川県立がんセンター臨床研究所ユニット長
片野田耕太
国立研究開発法人国立がん研究センター
がん対策研究所 部長
桜井なおみ
キャンサー・ソリューションズ株式会社
代表取締役社長

A. 研究目的

医療の質の向上には、患者や市民がともにパートナーとして医療に関与していくことが重要（Patient Engagement. P.3, 2016, WHO）でこれを患者・市民参画（Patient and Public Involvement）と呼んでいる。先駆的な英国や北米から、「がん研究」では参画者の多様性や公共的発言（代表性）の重要性、研究初期から全経過における参画の必要性がシステマティック・レビュー等で報告されている（Hoffman, 2019）。国内では、医療の監査的役割や政策参加、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）での研究への参画体制の整備が広がってきたが、さらに推進していくためには、患者・市民への啓発が不可欠である。すでに、国内では多様な団体による研修会が開催されているが、個別に独立した開催のため体系化されておらず、効果的な教育の提供に至

っていないことが指摘されてきた。その問題解決のために、学びの道しるべとなるカリキュラムを策定することが有効と考えられた。本開発研究は、国際的に患者・市民参画がもっとも求められている「がん研究」における患者・市民参画について、参画する患者・市民の人物像（アウトカム）、求められる資質・能力（コンピテンシー）を明らかにし、それに基づく体系的カリキュラムの作成と教育方法の開発を目的とする。本報告書は、3年計画の3年目に相当する。

<各年度の目標>

1年目：

資質・能力（コンピテンシー）に基づいた第1版カリキュラムの策定を行う。ホームページの基盤を構築する。

2年目：

第1版カリキュラムに対する患者体験者・市民からのフィードバックを受けた後、第2版を確定し、カリキュラムに基づく用語集の作成、自己学修を可能とするWebラーニングの作成を行う。カリキュラムを活用した研修会の試行を行い、活用や登録の手順を解説した動画を作成する。

3年目：

さらに教育的効果が高い対面研修会プログラムにカリキュラム・コードを付与し、その活用手順について確認する。また、掲載されたWebラーニングの受講者からのアンケート調査を実施する。これらを踏まえて、カリキュラムの欠損、重複等の有無を確認し、最終調整を行う。

B. 研究方法

がん医療に関する患者支援プログラムを実施している日本癌治療学会(JSCO)、日本癌学会(JCA)、日本臨床腫瘍学会(JSMO)、全国がん患者団体連合会、この4団体から推薦を受けた研究者および医学教育、疫学、医学統計学の専門家を加えたこれまでの体制を継続する。

アンケート調査、デルファイ法、フォーカス・グループ・インタビューを用いて開発されたカリキュラム第2版を用い、自己学修レベルの教育資材や対

面研修による講義、模擬研修などアプローチが異なる教育プログラムにカリキュラム・コードを適応させる。

1. 基礎研修・自己学修教育資材開発と評価

カリキュラム第2版に基づき開発を進めてきた動画(Webラーニング)は2年目に分担研究者3名の査読に続き、若手研究協力者の言葉の分かり易さの確認後、字幕を挿入することを行った。この3年目において、字幕を校了、ホームページに掲載、公開する。同時に、ホームページ上にアンケート調査を掲載、サイト上で集計が可能なプログラムを設置し、評価を行う。

2. カリキュラム・コードを適応させた専門研修(対面研修)の開催

カリキュラムを用いた対面研修会を開催する。2年目の日本緩和医療学会患者支援プログラム(PALプログラム)でカリキュラム・コードを設置した際に、複数コードの付与が可能であることが確認できていたことを受け、3年目では、研究班主催研修会、研究班協力学術団体として日本癌学会(SSPプログラム)、日本癌治療学会(PALプログラム)、日本臨床腫瘍学会(PAP)、における患者支援プログラムにカリキュラム・コードを複数付与し、参加者募集を行う。

日本サポーティブケア学会は患者体験者らが準会員として学会会員であることから、本大会自体に多くの患者・市民参画プログラムが設置されているため、本大会の一般プログラムに、大会長の判断でカリキュラム・コードを選択し、付与する。

3. カリキュラム活用促進

研修会登録システム、開催報告システムおよびその利活用促進にあたり、登録方法、報告方法に関する動画を作成する。

4. 評価について

評価ワーキングでは、Webラーニングと対面研修に対する評価アンケートを実施する。

1) 動画(Webラーニング) 評価

プレ調査を実施後、本調査を行い、受講者からの評価アンケートを集計する。

指標として、(1) わかりやすさ (項目と合う内容として過不足ないか)、(2) 表現の適切さ (文章や言葉遣いが断定的で押し付けるような表現になっていないか、配慮した表現になっているか)、(3) わかりやすさ (一般市民が理解できるか、専門用語が多く難解な解説になっていないか)、(4) 正確さ (科学的知見やエビデンスに基づいているか) について5件法で評価してもらい、評価尺度の4、5 (あまり理解することができなかつた、全く理解することができなかつた) を選択した場合は、具体的な指摘やどこが理解しづらかつたのか等記述欄に記載するよう依頼する。

2) 対面研修に対する評価

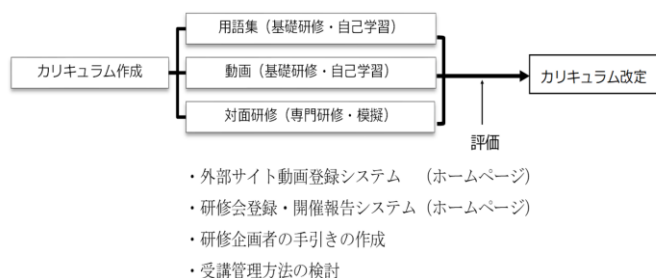
定性的なフィードバックで評価する。参加者からの患者・市民参画に関する意欲や理解度を評価し、企画側からの自由記載でのフィードバックの評価を行う。

3) 日本癌治療学会会員に対する意識調査(3年目)

Webにて、8月に過去2回の質問票と同じ内容で実施する。

5. カリキュラム最終版

カリキュラムを活用した教育プログラムの実施 (B1., 2.) および4. の評価結果を踏まえて、研究班分担研究者および研究協力者による会議 (分担・協力研究者パネル) にてカリキュラム・コードの欠損や重複などの有無を確認し、カリキュラムの最終版を完成する。



(倫理面への配慮)

完成した教育コンテンツ (動画) の評価について

は、研究班の専用サイト『がん研究 患者・市民参画マナビの広場』 <https://plaza.umin.ac.jp/ppi-ed/>

の中に、アンケート調査に関する情報公開文書を掲載し、評価アンケートに協力の依頼文を掲載する形で調査を実施した。本研究に関する倫理審査は、群馬大学人を対象とする医学系研究倫理審査委員会に申請し、承認を得た上で実施した (HS2024-032)。日本癌治療学会会員に対する意識調査 (5. 1) について、神奈川県立がんセンター研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。

(2022疫-160) 他の項目については倫理面の配慮が必要な内容を含んでいない。その他、個人情報の管理は厳重に行った。

C. 研究結果

1. 基礎研修・自己学修資材開発

1) 用語集: 2年目に450語で校了しており、検索状態 (部分一致、カリキュラム・コード別)、動作確認を実施した。

2) 動画 (Webラーニング) (資料1)

カリキュラム・コード別の動画は以下である。(分)

(1) 参画

参画-1: 興味(30)

参画-2: 参画チャレンジと意見交換(49)

(2) がん

がん-1 腫瘍学: 肺がん(37), 乳がん(21), 胃がん(22), 希少がん(27), 高齢者とがん(32),

AYA世代とがん(16)

がん-2 社会医学: がん予防(23),

がん検診(33),

サバイバーシップ(22),

がんと社会(34)

(3) 研究

研究-1: なぜ研究が必要なのか(71)

研究-2: アウトラインと計画

研究の基本設計図とPICO・PECO

(22)

アウトラインと計画(25)

研究-3：研究方法とデザイン

研究デザインの基本(29)

研究方法とデザイン(26)

研究-4：データ管理と公表(15)

(4) 統計

統計-1：統計用語(27)

(5) EB

EB-1：科学的根拠とガイドライン(11)

EB-2：情報リテラシー(19)

(6) EL

EL-1：がん医療の倫理(28)

EL-2：がん医療の関連法規(20)

参画-1、参画-2、研究-1 は座談会形式、それ以外は講義形式とし、分担研究者の査読、監修後、研究協力者による平易さの確認と字幕挿入を2年目に行い、3年目に全字幕挿入が終了した。

各動画に理解度確認クイズ(動画が理解できたかセルフチェックするための質問)とプログラム評価アンケートを設置し、Web上で集計し、評価へ進んだ。

2. カリキュラム・コードを適応させた専門研修(対面研修)の開催

1) 学術団体企画

患者支援プログラムにカリキュラム・コードを適応させるタイミングは、コードが講演内容を限定したり、恣意的な誘導となったりしないようプログラムの内容が決定した後に最適なコードを選択した。

実施した研修会は以下である。

① 令和6年9月19-21日 (資料2-1)

第83回日本癌学会学術総会 SSPプログラム

場所：福岡

参加者：7名、聴講17名

コード：参画-1(3)、参画-2(2)、がん-1(6)、研究-1(1)、

研究-4(1)

プログラム数：9

教育技法：グループワーク/ 討論 / 講義

総研修時間：8時間以上(3日間)

② 令和6年10月24-26日 (資料2-2)

第62回日本癌治療学会学術集会 PALプログラム

場所：福岡

参加者：68名

コード：参画-1(1)、参画-2(1)、がん-1(2)、がん-2(1)、研究-1(1)、研究-2(1)、研究-3(2)、研究-4(1)、EB-2(1)、EL-1(1)

プログラム数：6

教育技法：グループワーク/ 模擬的研修 / 講義

総研修時間：8時間以上(2日間)

③ 令和7年3月6-8日 (資料2-3)

第22回日本臨床腫瘍学会学術集会 PAP

場所：神戸

参加者：56名、Web 23名

コード：参画-1(1)、がん-1(7)、がん-2(1)、研究-1(2)、研究-2(2)、研究-3(2)、研究-4(2)、EL-1(1)、EL-2(1)

プログラム数：13

教育技法：グループワーク/ 講義 / 討論

総研修時間：8時間以上(3日間)

日本サポーターブケア学会は、市民らが準会員であるため、患者支援プログラムの設置ではなく、本大会のプログラムに準会員向けのものが置かれている。令和6年の学術集会では、初めての試みとして本大会の一部のプログラムにカリキュラム・コードが付与された。

④ 令和6年5月18-19日 (資料2-4)

第9回日本サポーターブケア学会学術集会

場所：埼玉

参加者：約100名

コード：参画-1(5)、参画-2(3)、研究-1(1)、EB-2(4)

プログラム数：5

教育技法：講義 / 討論

総研修時間：3～8時間未満(2日間)

2) 研究班主催 (資料2-5)

①令和6年7月20日

研究班主催 みんなで創る！がん研究のための患者・市民参画研修会

場所：東京

参加者：29名

コード：参画-1(2), 参画-2(3), 研究-1(3), 研究-2(3), 研究-3(2), 研究-4(2), EL-1(2), EL-2(1),

統計-1(1)

プログラム数：6

教育技法：グループワーク/ 講義

総研修時間：3～8時間未満

3. カリキュラム活用促進

1) カリキュラムを用いた研修会の普及：

動画の掲載 (資料3)

第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル確定版における「患者・市民参画の推進」のアウトプット指標は「厚生労働省科学研究を基に開催された研修会の開催回数」である。そのため、カリキュラムを活用した研修会がさらに広がっていくことを目的に、カリキュラムを活用した対面研修会の開催方法、ホームページへの研修会登録方法の手順を示した動画(5分12秒)の作成を行い、ホームページトップ画面に掲載した。

4. 評価について

1) 動画(Webラーニング) 評価 (資料4)

(1) プレ調査

プレ調査の回答は83名(がん経験者43%、患者家族25.6%、一般市民31.4%)であった。「統計-1」、「EL-2」の平均値が低かった。

(2) 本調査

回答は114名、字幕を付けた後の調査では、平均値が低かった「EL-2」は受講者が理解できなかったと回答した者が33.3%から25%へ改善した。「統計-1」は受講数(3名)は増えなかった。

動画(Webラーニング)全体を通して、「よく・

まあまあ理解することができた」と回答したものは、【内容】91.8%、【表現の適切さ】90.7%、【正確さ】90.7%、【わかりやすさ】79.1%であった。なお、【わかりやすさ】では、「どちらでもない」が16.7%、「あまり理解できなかった」2.6%であった。

2) 対面研修会の評価

評価対象の研修会は、研究班主催の対面研修会(令和7年7月20日、東京丸の内、終日開催)である。

(1) 参加者評価 (資料5)

参加者29名(アンケート回答者は28名)の属性は女性24名(85.7%)、関東近郊および広島県(3.6%)の参加があった。半数以上が50歳代であり、次いで60歳代、40歳代、30歳代だった。参加者の82.1%ががん患者とその遺族で、一般市民は17.9%であった。

96.4%が患者・市民参画への理解が進んだと回答した。(「とても進んだ」57.1%、「ある程度進んだ」39.3%、「どちらともいえない」3.6%)

(2) 企画側の評価

医療者委員(分担研究者)、医療者委員(研究協力者)、患者委員(ファシリテーター含む)から運営、内容、環境の3指標評価を自由記載で回答を集めた。

運営、内容について、それぞれからの意見は片山佳代子分担研究者の報告書を参照頂きたい。

5. カリキュラム最終版

令和7年1月16日の分担・協力研究者パネルにおいて、基礎研修プログラム(用語集、動画(Webラーニング)、専門研修プログラム(対面研修会)における企画に関わった患者委員3名を含む分担研究者、研究協力者によりカリキュラムの欠損、重複は認めなかったことが確認され、第2版を最終版として確定することで全員一致した。

D. 考察

3年目は、基礎研修プログラムにおいては完成、公開、評価が主体となり、専門研修プログラムは、

カリキュラムを利活用した開催の実効性と効果の検証が中心となった。

基礎研修プログラムにおける、動画の受講は疾病理解に関すること（「がん-1」、「がん-2」）に集まりやすい傾向があることがわかった。動画のメリットは、反復して見直すことができることである。しかし、「統計」のように今回の調査では受講数が増えなかったという結果であったような領域には受講勧奨に繋がる仕組みが必要なのかもしれない。

専門研修プログラムは、一方向性の講義に加えて、学修効果が高い討論、グループワーク、模擬（シミュレーション）とより実践的な技法が用いられていた。96.4%が患者・市民参画への理解が進んだと回答していることに繋がっていると考えられる。

学術団体（学会）主催のプログラムは、「がん」「研究」のコードが多く活用されており、それに付帯する「EL」、特に倫理領域はプログラムに複数回認められた。

研究班主催また、この研究が終了した後にカリキュラム・コードを活用して開催された他の研究グループ主催の研修会は、「参画」「研究」が頻用されていた。

このように学術団体では「がん」、参画推進の研修会では「参画」がテーマとして活用される傾向にあり、研修企画団体の性質に領域は影響を受けると思われる。

今回の5回の研修会全体を通して、「EB-1」（EBM・ガイドライン）は0回であった。研究が結果を得て、ガイドラインなどに活用されたり、制度改革や薬剤開発につながっていったり、ガイドラインなどを根拠に治療の意思決定に用いられりするのだが、「EB」の領域は、こうした社会へ還元されていく過程を学修する領域にあたる。患者・市民にとって重要な課題であるが、情報の探索やソースがネット検索からAI（ChatGPTなど）に置き換わりつつあり、社会の変化が研修プログラムの領域選択に反映されたのかもしれない。

このような研修プログラムの傾向がカリキュラム・コードを活用することで濃淡が見えてくるようになり、社会全体に対する学修の機会の過不足

を可視化することができる。それによって学修領域を網羅型としたり、ポイント型としたりするなど、多様な背景や興味が異なる市民が、自分の学修プロセスを自由に調整することの支援にも繋がる。

このように、カリキュラムの利活用は、企画者側にとっても、学修者側にとっても、効果的に機能することがわかった。

今回の研修会の企画の問題として、グループワークを難易度別に同時に3本行うプログラムの要望がある一方で、講師のスライド資料の提出が前日となるなどし、加えて参加者の背景が多様であることから、事前にグループワークへの振り分けは困難となるなどした。直前の作業量が大きく、十分な準備時間が必要であった。企画側に患者・市民の参画がある場合は、研修会を構造化することが重要と考えた。一方で、交通の利便性、会場の広さなどは予算との関係として理解頂くことも大切だった。

運営や企画に、ファシリテーターとして患者・市民に参画・協力を頂いたことで、医療者委員と患者委員からの各々の視点で課題が上がり、今後活かしていける知見を得ることができた。

E. 結論

カリキュラム第2版に基づく、1) 基礎研修（動画（Webラーニング23本）の公開）、2) 専門研修（対面研修）プログラムの実施（研修会5回、プログラム39本）、それらに対する評価を行い、カリキュラム第2版に欠損や重複がないことが確認され、実行可能な最終版を確定した。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Miyamoto Y, Kikuta J, Matsui T, Hasegawa T, Fujii K, Okuzaki D, Liu YC, Yoshioka T, Seno S, Motooka D, Uchida Y, Yamashita E, Kobayashi S, Eguchi H, Morii E,

- Tryggvason K, Shichita T, Kayama H, Atarashi K, Kunisawa J, Honda K, Takeda K, Ishii M. Periportal macrophages protect against commensal-driven liver inflammation. *Nature*. 2024 May;629(8013):901-909. doi: 10.1038/s41586-024-07372-6. Epub 2024 Apr 24. PMID: 38658756.
- 2) Saito T, Kurokawa Y, Fujitani K, Kawabata R, Takeno A, Mikami J, Endo S, Matsuyama J, Akamaru Y, Hirota M, Kishi K, Urakawa S, Yamamoto K, Tanaka K, Takahashi T, Oka M, Wada H, Eguchi H, Doki Y. Serum NY-ESO-1 antibody as a predictive biomarker for postoperative recurrence of gastric cancer: a multicenter prospective observational study. *Br J Cancer*. 2024 Apr;130(7):1157-1165. doi: 10.1038/s41416-023-02540-3. Epub 2024 Feb 7. PMID: 38326601; PMCID: PMC10991393.
 - 3) Akagi H, Katsumata N, Suzuki K, Masukawa K, Morita T, Kizawa Y, Tsuneto S, Shima Y, Miyashita M. Unapproved and unproven cancer treatments in patients admitted to palliative care units. *Support Care Cancer*. 2024 Dec 2;32(12):841
 - 4) Mimori K. A comprehensive summary of the impact of the COVID era on various gastrointestinal cancers. *Ann Gastroenterol Surg*. 2024 Apr 25;8(3):372-373. doi: 10.1002/ags3.12811.
 - 5) Mimori K, Fujii T, Sho M, Endo I, Shirabe K, Kitagawa Y. Interview with Prof. Dr. Jeffrey Drebin, President of the 2024 President Elect of the American Surgical Association. *Ann Gastroenterol Surg*. 2024 Nov 22;9(1):24-31. doi:10.1002/ags3.12882.
 - 6) Junji Otaki, Yoko Watanabe, Yoshimi Harada, Hiroshi Mitoma. What Are the Important Qualities and Abilities of Future Doctors? A Nationwide Attitude Survey in Japan. *Education Sciences*. 2024 May, 14(5):533. DOI: 10.3390/educsci14050533
 - 7) Yinghan Xu, Masahiko Sakaguchi, Qun Jin, Shoji Nishimura, Kayoko Katayama, Mikiko Asai-Sato, Yutaka Ueda, Yuri Ito and Atsushi Ogihara. 2 Content Analysis of Human Papilloma Virus Vaccine-Related Videos on YouTube in Japan. *J Consumer Health on the Internet*. <https://doi.org/10.1080/15398285.2024.2416462>
 - 8) Sugiyama N, Kinjo M, Jinno S, Cynthia de Luise, Morishima T, Higuchi T, Katayama K, et al., Validation of claims-based algorithms for rheumatoid arthritis in Japan: Results from the VALIDATE-J study. *Int J Rheum Dis*. 2024 Jan;27(1):e15001.
 - 9) Asami Yagi, Satoshi Nakagawa, Yutaka Ueda, Emiko Oka, Sayaka Ikeda, Mamoru Kakuda, Eiji Kobayashi, Yuri Ito, Kayoko Katayama, et al., Effectiveness of catch-up and routine program of the 9-valent vaccine on cervical cancer risk reduction in Japan. *Cancer Sci*. 2024 Mar;115(3):916-925.
 - 10) Yinghan Xu, Masahiko Sakaguchi, Qun Jin, Shoji Nishimura, Kayoko Katayama, Mikiko Asai-Sato, Yutaka Ueda, Yuri Ito and Atsushi Ogihara. Content Analysis of Human Papilloma Virus Vaccine-Related Videos on YouTube in Japan. *J Consumer Health on the Internet*. <https://doi.org/10.1080/15398285.2024.2416462>.
 - 11) Su Lan Yang, Kayo Togawa, Stuart Gilmour, Maria E Leon, Isabelle Soerjomataram, Kota Katanoda. Projecting the impact of implementation of WHO MPOWER measures on smoking prevalence

- and mortality in Japan. Tobacco control, 33(3) 295-301 2024
- 12) Christina N Kyriakos, Olufemi Erinoso, Pete Driezen, James F Thrasher, Kota Katanoda, Anne C K Quah, Takahiro Tabuchi, Cristina de Abreu Perez, Hong Gwan Seo, Su Young Kim Prevalence and perceptions of flavour capsule cigarettes among adults who smoke in Brazil, Japan, Republic of Korea, Malaysia and Mexico: findings from the ITC surveys. BMJ open 14(4) e083080 2024.
 - 13) Masato Ota, Kohei Taniguchi, Megumi Hori, Kota Katanoda, Kayo Nakata, Isao Miyashiro, Tomohiro Matsuda, Sang-Woong Lee, Yuri Ito. Trends in patterns of treatment and survival of colorectal cancer patients using cancer registry data in Japan: 1995-2015. Cancer science 2024
 - 14) Takahiro Tabuchi, Koichiro Takenobu, Kota Katanoda. Statement of continued commitment to the issue of tobacco industry money. Nicotine & tobacco research : official journal of the Society for Research on Nicotine and Tobacco 2024.
 - 15) Hirokazu Tanaka, Kota Katanoda, Yasuki Kobayashi. [Educational inequalities in mortality by prefectures in Japan: national census-linked mortality data, 2010-2015]. [Nihon koshu eisei zasshi] Japanese journal of public health 2024
 - 16) Suzuki M, Uchibori K, Oh-Hara T, Nomura Y, Suzuki R, Takemoto A, Araki M, Matsumoto S, Sagae Y, Kukimoto-Niino M, Kawase Y, Shirouzu M, Okuno Y, Nishio M, Fujita N, Katayama R. A macrocyclic kinase inhibitor overcomes triple resistant mutations in EGFR-positive lung cancer. NPJ Precis. Oncol., 2024 Feb 23;8(1):46
2. 学会発表
 - 1) 有賀悦子. 鎮痛療法. 婦人科がんにおける症状緩和. 生涯研修プログラム. 第76回日本産科婦人科学会学術講演会, 横浜, 4月, 2024年
 - 2) 有賀悦子. 緩和ケアにおける患者・市民参画の現状と展望. パネルディスカッション. 第29回日本緩和医療学会学術大会, 神戸, 6月, 2024年
 - 3) 有賀悦子. 多様性の物語り. 招請講演. 第56回日本医学教育学会大会, 帝京大学, 8月, 2024年
 - 4) 有賀悦子. PALの力を活かしてがん医療のギャップを埋める, 患者連携・PALワーキンググループシンポジウム. 第62回日本癌治療学会学術集会, 福岡, 10月, 2024年
 - 5) 片山佳代子. 有賀悦子. アンケート調査項目をつくってみよう(患者団体での調査), PALセミナー ワークショップ. 第62回日本癌治療学会学術集会, 福岡, 10月, 2024年
 - 6) 有賀悦子. がん研究への患者・市民参画のための普及活動、有賀班の進捗報告, 社会連携PAL委員会企画シンポジウム. 第62回日本癌治療学会学術集会, 福岡, 10月, 2024年
 - 7) 有賀悦子. がん患者における患者・市民参画の推進に向けて. PAP. 第22回臨床腫瘍学会学術集会. 神戸, 3月, 2025年
 - 8) 有賀悦子. がん患者における患者・市民参画の必要性とその推進に向けた教育プログラム開発研究班報告. 患者支援・サバイバーシップシンポジウム. 第22回臨床腫瘍学会学術集会. 神戸, 3月, 2025年
 - 9) 赤木 秀子(日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科), 眞鍋 恵理子, 松村 博之, 勝俣 範之, 蒔田 益次郎, 伊藤 良則 患者のpCR率を高める! KEYNOTE 522でpCR率を高めるヒント(Get a high pCR rate with your patients! Tips for increasing it in KEYNOTE 522). 日本乳癌学会総会 32回 P.320(2024.07)
 - 10) 勝俣 範之, SDMを推進するためには. 第37回日本放射線腫瘍学会学術大会. 横浜, 11月, 2024年

- 11) 赤木 秀子(日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科), 佐藤 真帆, 窪野 裕久, 川村 真理, 鈴木 浩太郎, 勝俣 範之. 免疫チェック阻害剤の眼所見の副作用はどの位起こるのだろうか?その対処法は?(会議録/英語) 日本癌治療学会学術集会抄録集 62 回 P. O53-4(2024.10)
- 12) 西尾 真(Kurume University Hospital), 尾松 公平, 濱西 潤三, 勝俣 範之, 澤田 健二郎, 竹内 聡, 青木 大輔, 藤原 恵一, 杉山 徹, 小西 郁生 プラチナ製剤抵抗性(進行または再発)卵巣癌患者のニボルマブ治療に関するバイオマーカー分析 NINJA 試験 (Biomarker analysis for nivolumab treatment in patients with platinum-resistant (advanced or recurrent) ovarian cancer: NINJA trial)(会議録/英語 日本癌治療学会学術集会抄録集 62 回 P. FR2-3(2024.10)
- 13) 澤田 健二郎(Osaka University Hospital), 尾松 公平, 濱西 潤三, 勝俣 範之, 西尾 真, 竹内 聡, 青木 大輔, 藤原 恵一, 杉山 徹, 小西 郁生 プラチナ製剤抵抗性(進行または再発)卵巣癌患者を対象としたニボルマブ治療に関連する安全性情報に基づくサブグループ解析 NINJA 試験(Sub-group analysis by safety information associated with nivolumab treatment in patients with platinum-resistant(advanced or recurrent) ovarian cancer: NINJA trial)(会議録/英語) 日本癌治療学会学術集会抄録集 62 回 P. FR2-2(2024.10)
- 14) 渡邊清高, 紺野久美子, 堀田晶子, 石川ひろの, 村上勲, 古屋洋子, 鈴木久美子, 臼井千恵, 大久保由美子 医療系学部合同「医療コミュニケーション」演習におけるチーム医療・多職種連携の教育効果 第 56 回日本医学教育学会大会 2024 年 8 月 9 日
- 15) 渡邊清高. がん医療の現在と未来 がん支持医療の進歩から 第 9 回日本サポーターブ
- ケア学会学術集会 市民公開講座 知っておきたい がんと感染症のこと これからの医療のこと 2024 年 5 月 19 日
- 16) 渡邊清高, 桜井なおみ, 西森久和, 大野真司, 岡本禎晃, 篠崎勝則, 新小田雄一, 辻晃仁, 松井優子, 安本和生 がんサポーターブケア領域における患者・市民参画の現状と協業の可能性 JASCC 患者市民 参画ワーキンググループの設立に向けて第 9 回日本サポーターブケア学会学術集会 2024 年
- 17) 渡邊清高 がんをモデルとした多職種チーム教育の可能性第 9 回日本サポーターブケア学会学術集会 2024 年
- 18) 渡邊清高 がん診療におけるリスクコミュニケーション第 9 回日本サポーターブケア学会学術集会 2024 年 5 月 19 日
- 19) 渡邊清高 高齢がん患者診療ガイドラインの普及に向けた研修会の有用性評価と、がん診療連携拠点病院 での普及に向けたロードマップ第 9 回日本サポーターブケア学会学術集会 2024 年 5 月 19 日
- 20) 篠崎勝則, 橋本美千代, 西岡典幸, 渡邊清高 がん診療連携拠点病院が実施した「地域で取り組むがん患者支援」と題するがん医療従事者 研修会ウェビナーの教育効果と連携推進の醸成 第 9 回日本サポーターブケア学会学術集会 2024 年
- 21) 宇和川匡, 渡邊清高, 丹田滋, 青儀健二郎 がん支持医療を広く国民に届けるために. 第 9 回日本サポーターブケア学会学術集会 2024 年 5 月 18 日
- 22) 渡邊清高 在宅医療の質向上を目指した情報共有と多職種連携の活性化に向けて. 第 9 回日本サポーターブケア学会学術集会 2024 年 5 月 18 日
- 23) 片山佳代子, 阪口昌彦, 八木麻未, 佐藤美紀子, 扇原淳, 伊藤ゆり, 上田豊. HPVワクチン接種勧奨リーフレットの有効性を検証するための地域比較ランダム化試験の効果検証. 第35回日本疫学会学術総会ポスター発表. 2025年1

月(高知市)

- 24) 徐桜晗, 阪口昌彦, 片山佳代子, 扇原淳. 中国の動画サイトにおけるHPVワクチン関連動画のユーザーおよびコメント特性の分析. 第65回日本社会医学会(ポスター発表)2024年8月(福岡)
- 25) 片山佳代子. 演題「患者・市民参画の推進と医療の質・安全」教育セッション招聘講演. 第19回医療の質・安全学会学術集会、2024年11月(横浜)
- 26) 片山佳代子. 指定発言者として講演「誰一人取り残さないがん対策における格差のモニタリングと要因解明に資する研究」. がん患者学会2024.2024年11月(築地:国立がん研究センター)
- 27) 片山佳代子. 依頼講演「はじめてのアンケート調査—どなたでもできる調査票の作り方とプレゼンテーション」—社:日本がん患者フォーラム

2025 (FFJCP2025) 患者からみたゲノム医療の課題とエビデンスに基づいた政策提言について. 2025年1月(品川)

- 28) 片山佳代子. 招聘『がん研究における患者・市民参画の推進に向けて』シンポジスト. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会. 2025年3月(神戸)
- 29) 高木聡, 藤田直也, 組織透明化技術を用いた骨肉腫肺転移巣の観察 第33回日本がん転移学会, 奈良, 6月, 2024年

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

がん研究に患者・市民が参画するための教育動画の評価ならびに
対面研修会の参加者と企画者側の評価に関する研究

研究分担者 片山佳代子 群馬大学情報学部准教授 / 神奈川県立がんセンター臨床研究所ユニット長

研究要旨：最終年度となる本研究では、①カリキュラム第2版の教育ツールの1つである自学用学習動画の受講者からの評価と、②研究班主催の初の患者・市民参画を学ぶための対面研修会の評価（企画者側からと受講者側からの双方）を実施した。①については開発しながら評価も実施したため、アクションリサーチの手法を取り入れ、動画視聴者数から評価アンケート調査に協力された114名を対象に集計、自由記述からフィードバックを得ることとした。②の対面研修会は参加した患者・市民からの評価（28名）と開催する側の班員と患者ファシリテーターとして協力のあった者計16名からフィードバックを得た。①の教育動画の評価は23本の動画からなるカリキュラムについて【内容】、【表現】、【正確さ】は91%を超えて「理解することができた」と回答していることを確認した。【わかりやすさ】は、79.1%が「理解することができた」と回答と「どちらでもない」が16.3%となった。今後も受講者からの有用なフィードバックを集め、持続可能な形で動画の修正や更新を行うことで、本邦のがん領域における患者・市民参画を推進するための教育ツールとして有用であることが示された。②の対面研修会の参加者からは96.4%が患者・市民参画への理解が進んだと回答した。主催企画した側からのフィードバックでは、医療者委員と患者委員で各々違う視点での課題があげられたが、次に活かせる有用な知見を得ることができた。

A. 研究目的

本研究の3年目である今年度は、研究班で開発した①カリキュラム第2版の教育ツールの1つである自学用学習動画の受講者からの評価と、②研究班主催の初の患者・市民参画を学ぶための対面研修会の評価（企画者側からと受講者側からの双方）を実施し、結果をフィードバックとしてまとめ持続可能な学習コンテンツの開発に資することを目的とした。

B. 研究方法

1. カリキュラム第2版による自学者用教育コンテンツ（動画）の評価について

プレ調査：受講者向けの主観的な習熟度を測るアンケート調査を作成し、動画コンテンツサイトに掲載する形で実施した。カリキュラムは6領域のカリキュラムコードから成る。令和6年10～12月にかけて研究班開発のサイト内で公開された動画23本について、受講依頼を行った3つの患者団体に受講後のアンケートの協力をお願いした。

本調査：プレ調査で、修正や改編の必要のあった

箇所をアップデートする形でサイト内動画を一般公開し、広く受講者からの評価アンケートを集計した。

評価方法は、指標として1) わかりやすさ（項目と合う内容として過不足ないか）、2) 表現の適切さ（文章や言葉遣いが断定的で押し付けるような表現になっていないか、配慮した表現になっているか）、3) わかりやすさ（一般市民が理解できるか、専門用語が多く難解な解説になっていないか）、4) 正確さ（科学的知見やエビデンスに基づいているか）について5件法で評価してもらい、評価尺度の4、5（あまり理解することができなかつた、全く理解することができなかつた）を選択した場合は、具体的な指摘やどこが理解しづらかつたのか等記述欄に記載するよう依頼した。

2. 研究班主催の初の患者・市民参画を学ぶための対面研修会の企画と評価

令和6年2月研究班員の中の患者委員らと共に、対面研修会開催の企画について検討を開始した。多くの班員や受講者の参加を考え、7月20日（土曜）に開催することを決定し、そこに向けて準備を進

める形とした。

具体的な検討内容としては、

・対面研修会で、動画を視聴して参加してもらうのは前提としたとしても、講義で視聴した患者市民から直接、質問や疑問を受け、それについて解説したり講義したりする形式はどうか？→動画の修正は困難なので、追加スライド程度の改編は可能である。

・基礎研究で自己学習や小テストはあるが、対面研修では理解を深めてもらう工夫が必要だと考える。

・グループワークについても以下のような疑似体験ができるといい

疑似レイサマリーづくり

疑似倫理審査委員会（癌治 PAL のような）

疑似がん対策推進審議会委員会

疑似臨床試験倫理委員会 などの意見が出た。

対面研修を企画検討していく中で、開催のタイトルは患者市民と共に創りあげていくことを象徴できるようなものがないという意見から「みんなで創る！がん研究のための患者・市民参画研修会」とすることとした。

評価については、何等かの評価は必要ではあるが対面研修教育も基礎研修教育も作りながら評価も行うというアクションリサーチの形式であるため系統的な評価よりも定性的なフィードバックをもらうことで評価とするぐらいが現実的ではないか、評価 WG 委員からの意見があった。そこで受講者からは患者・市民参画への意欲や理解度などを、ファシリテーター役からは自由記述などでフィードバック収集し解析することとした。

（倫理面への配慮）

本研究は群馬大学人を対象とする医学系研究倫理審査委員会に申請し、承認を得た上で実施した（HS2024-032）

C. 研究結果

1. カリキュラム第2版による自学者用コンテンツ（動画）の評価について（資料4）

プレ調査には83名から回答を得ることができた。内訳は、がん経験者43%、患者家族25.6%、一般市民31.4%であった。23本の動画の視聴内訳を図1に示す。23本中受講者が2名という動画も多く単純集計ではあるが、評価項目を5点満点とみなし集計したところ、「統計-1」、「EL-2」の平均値が低いことがわかった。また、改善へのコメントとして、

・がん-1：腫瘍学

→肺がんと書いてありながら、動画の半分以上ががんの総論となっている、名称の『(肺がん)』をなくしたり、動画を二つに分けたりした方が良いと思う。

→投影資料の文字数が多い。

→スライドに文章の記載があるため、それを読めば理解できるが、口頭説明（音声）だけで理解しようとするとなかなか聞き取りづらく、速度も速すぎた。せっかくの動画なので聴覚だけでもある程度分かりやすいものが良いかと思う。

→腫瘍学なのである程度は仕方がないと思うが、専門的でわかりにくい箇所が多かったと思う。用語も専門的なものが多く、頭にはすっと入ってこなかった。

・EL-2：

→EL-2に、内容の異なるEL-1の動画が設定されています。

など、具体的な改善案を記載いただくことができた。

本調査は、字幕を動画に付けるなどの改善策をとり、視聴数を増やす形で動画の視聴後アンケート調査を年度末で再集計したところ、114名から回答を得ることができた。結果、プレ調査で評価点が低かった「EL-2」は受講者が理解できなかったと回答した者が33.3%から25%へ改善した。「統計-1」は受講数（3名）と増えなかった。

2. 研究班主催の初の患者・市民参画を学ぶための対面研修会の企画と評価について

7月20日（土曜）東京丸の内にて、初の対面研究会を開催した。参加者は29名（内、アンケート回答者は28名）の属性は男性4名（14.8%）、女性24名（8

5.7%)であった。また対面ということで関東近郊からの参加者を想定していたが、関東圏以外の広島県から3.6%の参加があった。半数以上が50歳代であり、次いで60歳代、40歳代、30歳代と続き、20歳代の参加者はなかった。参加者の82.1%ががん患者とその遺族であり、一般市民は17.9%であった。

1) 参加者からの評価 (資料5)

参加者の研修会参加後の患者・市民参画への理解について尋ねたところ、「とても進んだ」57.1%、「ある程度進んだ」39.3%、「どちらともいえない」3.6%であった。また参加した感想やご意見などの自由記述への回答も多く、(以下は似たようなコメントを抜粋)

- 医療従事者の方は研究が中心で患者のことは二の次かと思っていたが患者のことも考えようとして下さっていること。患者が参画することで、より良いものになると確信しました。
- 貴重な学びの場をありがとうございました。研修会当日が近づくにつれて、私にはハードルが高いのでは、と不安になりました。が、あたたかな雰囲気の中で安心して前に進むことができました。まだ参加の段階です。参画できるよう学び続けたいと思います。午後の3つのワークショップはどれも興味深く、ひとつしか参加できなかったのは残念でした。次の研修会を楽しみにしています。
- 私自身、医療従事者ですが、勉強不足なところもあり、よくわからない言葉が出てきました。医療者でもわかりにくい言葉は、一般市民にはもっとわかりにくいと思われました。だからと言って、子供相手のような表現だと、馬鹿にされた感もあるし、そこは難しいところだと思いました。相手に伝わると言う事は、とても難しいけど、とても大事だと思いました。
- グループ3に参加しました。先生が用意されたスライドはとても良かったと思いましたが、もう少しお時間があれば...と思いました。ディスカッションの内容にも、色々考えさせられました。同じ患者でも、治療に求める物の違い等もあり、

大変興味深かったです。有難うございました。

- 臨床研究や治験、ガイドライン、終末期医療のあり方など、患者・市民の立場からの発信は必要不可欠だと思います。その発信を説得力のあるものにするには、前提となる基礎知識を得られる機会がしっかりと用意されていることが大切だと思いました。
- ご講義そのものは大変わかりやすく、とても勉強になりましたが、自身の理解度が不足故、「まあまあ理解できた」にチェックを入れました。かねて、市民参画はとても重要であり、自分も参画したいと思っていましたが、どのような場面でどのように参画できるのか。したらいいのか。そもそも用語も分からずにいましたが、今回の研修で、参画の意味や自分にもできることが見えてきたように思いました。既に前を進み、下地を作ってきた患者の皆様のご尽力、ご理解のある医療者がいらしてこそその患者・市民参画です。大変勉強になったのと同時に、励みになりました。自分にできることを見直し、学び、少しでも進めるようにしたいと思いました。ご一緒に学んだ方々とも今後つながることができたら、幸いです。ありがとうございました。
- 市民や患者が参画するにはそれなりに知識や研究に基づいた建設的な意見を出せるようになる必要があると思う。今回第1回目だったので、引き続きこのような研修へ参加したいと思った。単なる参加ではなく参画できる人になりたいと思った。先生方の熱意に感銘を受けました。ありがとうございました。
- 市民参画研修会に参加したことで、いままで感じていた難しい事だろうと勝手に思い込んでいたことに気が付きました。きっとどなたでも理解できるような言葉や分かり易い内容に構成されていたかもしれませんが、とても理解しやすい内容でしたので、参加でき良かったと思います。このように市民やがん患者が、参画してゆくことで新しい薬や治療法の開発が進んでゆき、それがまた私たちようにがんを経験した者の希望になってゆく感じました。

- ・がん経験者として、何かできることはないかと思っていましたので、参加できて良かったですし、これからも参加したいと思いました。オンラインと違い、様々な立場の方とお話しできたのも良かったです。まだまだ知識不足で、不適切な発言や質問をしてしまったのでは、と思います。もっと患者も勉強しなくてはと思いました。ありがとうございました。
 - ・とても有意義かつ楽しい研修会でした。ありがとうございます。医療をよくしていくのは、医療者(研究者)だけの力ではなく、私達市民も大きな役割を果たせるのだと、勇気づけられました。また、患者会の皆様が多くの知識と、経験を基にした素晴らしい意見をたくさんお持ちで、尊敬の念に堪えません。私自身も、勉強を進めて、患者・市民参画の実践に少しでも寄与できるようになりたいと思いました。
- などの意見を収集することができた。

2) 企画側からの評価

本研修会は、3名の患者委員を含む対面ワーキンググループを中心に企画、当日運営には委託業者の他、外部から患者のファシリテーター役を募り協力していただく形で実施した。

評価については、研修会終了後に、企画した医療者委員、患者委員を含む患者ファシリテーターから①運営について、②内容について、③環境について、の3指標評価について自由記述で回答を集めた。

【環境】についての評価は、会場（東京、丸ノ内の貸し会議室）についてのアクセスや広さ、周辺環境等に対するものであり、研修会そのものの評価としては割愛した。

<https://www.tc-forum.co.jp/ap-marunouchi/>

(1) 医療者委員（研究分担者）からのフィードバック

【運営】について

- ① 企画・準備段階での体制の課題と気づき：
 - ・役割分担と指揮系統について、
 - ・チームビルディングの必要性について、

- ・患者委員と協働体制構築、などの記載があった。
- ② 準備期間と当日の進行における反省点：
 - ・プログラム確定の遅れと影響、リハーサルや進行確認の不足
 - ・閉会時のフォロー不足 等の記載があった。
 - ③ 今後の標準化・マニュアル化に向けた提案：
 - ・基本資料の整備、資料の一括提供等の記載があった。
 - ④ フォローアップと振り返りの体制構築：
 - ・当日中の反省共有や、記録を残す仕組みが重要
 - ・非公式な感想共有の時間も含めた設計が、今後の改善につながる。
- であった。

まとめと今後に向けては、

- ・今回の研修会は、パイロット的な位置づけとして多くの学びと気づきが得られた。
- ・運営メンバーのスキルと柔軟な対応力により成功に導かれたが、今後はプログラム標準化・再現性の確保のための体制構築・資料整備・役割の明確化が不可欠である。

(2) 医療者委員（研究協力者）からのフィードバック

【運営】について

- ① 研修全体の構成と学習設計：
 - ・午前は総論的な全体研修、午後は参加型グループワークという構成は、理想的である。午前の全体研修にも双方向性があり、参加意識を高める構成だった。
 - ・対面集合研修の学習目標を明示すべきであり、e-learningとの連動を図ることで学習効果を高めるべき。
 - ・e-learningの事前学習を必須とし、当日は復習と意見共有の場とする案が有効。
- ② グループワーク運営に関する指摘と提案：
 - ・グループワークの参加人数の上限を設定し、ファシリテーター数に応じた人数調整が必要。
 - ・ファシリテーター向けマニュアルや事前打ち合わせの必要性、など。
- ③ プレゼンや資料に関する課題：
 - ・当日の人数把握が朝になって行われたことで、

プレゼン準備に支障があった。

・資料作成のタイミング、準備の早期化の必要。

④ 写真撮影・記録管理・表示物に関する提案：

・写真撮影は紙に「自分が目指す参画」を書いて撮るなど、工夫が提案された。

・大きめの名札があると、名前で呼び合いやすくなる、など。

⑤ 運営マニュアルと情報共有体制：

・講師スライドと1日の流れをまとめたファシリテーター用マニュアルがあると便利。

・スマホの使用を最小限にするなど、参加者・スタッフ共通の行動基準の提示も検討が必要、などがあった。

全体評価と今後の期待として、

・初回にも関わらず円滑な進行だった。

・特に、興味に応じた分科型の構成で参加者の主体性が引き出された。

・一部の患者ファシリテーターに事前情報が伝わっていなかった点は改善点。

・研修の時間配分は適切だった。

・個人として、がん患者の社会的課題への気づきを得たことが大きな学びだった。

(3) 患者委員（ファシリテーター含む）からのフィードバック

【運営】について

① 時間配分と内容構成について

・前半の時間配分を調整することで、午後のワークにより多くの時間を充てることができたのではないかな。

・臨床試験のセッションでは、PICO作成後にバイアスや課題の検討を行う時間も設けられた可能性がある。

② 事前準備と情報共有の課題

・通し確認がなかったため、午後のワークに必要な知識が午前中に得られなかった。

・講師・ファシリテーターの力量によって支えられたが、再現性のある構成にする必要がある。

・研修終了後に30分程度の振り返りの場が設けられるべきだった。

③ 運営責任体制の不明瞭さ

・研修の責任者が明示されておらず、最後まで不明だった。

・フライヤーに主催者の記載がなかった。

④ ファシリテーター支援体制

・打ち合わせの案内がなく、各自が個別に確認する形になってしまった。

・ファシリテーターとして何をすべきか、当日まで明確にならなかった。

・運営全体が医療者主導の印象となり、患者ファシリテーターの主体性が発揮しにくかった。

⑤ 振り返りと評価の機会不足、

・研修終了後に30分程度の振り返りの場が設けられるべきだった。

・患者にとって心地よい、優しい運営のあり方を含めて、最後まで共に検討するべきだった。

(4) 医療者委員（研究分担者）からのフィードバック

【内容】について

① プログラム設計と意思決定の過程

・プログラム内容はワーキンググループ内で議論のうえ決定したが、より詳細な検討プロセスが必要だったとの反省がある。

・『みんなで創る』という理念を体現しきれなかった（患者と医療者との連携の課題）。

② 用語の共通理解の工夫

・頻出する専門用語について、紙媒体の『用語集』を用意することで、参加者間の理解を促進できるとの提案。

③ 模擬倫理審査委員会パートの設計と工夫

・模擬倫理審査委員会では、経験者の医療者と熟練コーディネーターの担当により安定した進行が可能だった。

・将来的には初めての担当者にも対応できるよう、以下の項目を明示した資料を整備する必要がある：

- 各ワークの概要

- 到達目標

- 患者・市民参画としての役割
- コーディネーターの役割

これらを示すことで、参加者が各テーマを選ぶ際の判断材料ともなる。

(5) 医療者委員（研究協力者）からのフィードバック

【内容】について

- ① 各講義及びセッション設計について
 - ・自己学習作業の論点が広すぎる場合があり、絞り込みが必要。
 - ・PICO演習後に研究立案に進むような、各論的な内容があると良かった。
 - ・患者・市民参画の内容導入がやや唐突で、午前最後または午後の自己点検の時間に配置してはどうか。
- ② グループワークの設計と準備について
 - ・準備期間が短く、各ファシリテーターの役割も明確でなかった。
 - ・「自分が目指す参画」をグループ内で共有し、代表数名に発表してもらおうなどの工夫が望まれる。
 - ・MeLBAについても、参加者による発表の時間があればよかった
- ③ コミュニケーションと共有の場
 - ・休憩時間の質問対応は有意義だったが、時間内での共有や懇親的なトークの場の必要性。
 - ・動画視聴の有無や参加者の知識レベルが不明で、講義内容の深度調整が困難だった。
- ④ 専門性と継続学習への配慮
 - ・参加者の理解度に差があるため、内容が広くなったが、それは結果的に良かった。
 - ・専門用語の使用は避けられないが、限られた研修時間内では学びの限界もある。
 - ・研修会は「もっと学びたい」と思わせる入口となるような構成が望ましい。
- ⑤ その他提案
 - ・多様な立場からの意見が得られた点は貴重な経験だった。

・早口な話し手が多く、今後高齢者やコミュニケーションに課題を抱える方への配慮が必要。

・「共に作る」という理念に基づき、研修会を通じて何かを共同で創り上げる作業の導入も有効ではないか。

(6) 患者委員（ファシリテーター含む）からのフィードバック

【内容】について

- ① 講義構成・内容の工夫
 - ・専門用語の解説には辞書的な定義よりも、具体的な事例に基づく説明が効果的。
 - ・eラーニングの補完として、要点をまとめたスライドの活用が記憶定着に有効。
- ② グループワークに関する課題と提案
 - ・最低限の基礎知識（例：臨床試験）を事前に共有することで進行が円滑になる。
 - ・事前資料の有無が参加動機や準備状況に影響を与えた。
- ③ 学びの設計とシリーズ化の提案
 - ・1回に多くを盛り込みすぎとの声があり、テーマ別のシリーズ開催が望ましい。
 - ・前半講義が後半ディスカッションに繋がる連動した設計が必要。
 - ・参加者自身の参画への思いをグループ内で共有する機会があるとよい。
- ④ 学びの環境・心構え
 - ・ロールモデルの存在が他の参加者に良い影響を与えていた。
 - ・初学者の不安に寄り添う設計が求められた。
- ⑤ 振り返りと継続支援。
 - ・ファシリテーターが事前にアンケート項目を把握できると進行や振り返りに活かせる。
 - ・HPや教材の案内を通じて、参加後の学びを継続できる導線設計が求められた。

D. 考察

1. カリキュラム第2版による自己学者用教育コンテンツ（動画）の評価について

本研究班で開発した学習用動画は、受講者が自

ら選び、取り掛かりやすい動画から、また自分のペースで何度も繰り返し視聴しながら学ぶことができることが特徴であり、自分のペースで学習を進める事ができる。視聴した8割以上が理解できたと回答しているため、がん研究に参画したい患者・市民にとって有益な教育ツールとなっていることが確認できた。今後は視聴数を増やしながら、新規知見等を更新していけるような仕組みづくりが必要である。

2. 研究班主催の初の患者・市民参画を学ぶための対面研修会の評価

1) 参加者：受講者からの評価

参加した9割が患者・市民参画への理解が進んだと回答しており、提供した講義・グループワークの理解度は9割がよく理解できた・まあまあ理解できたと回答した。自由記述は結果に抜粋して記載したが、多くの参加者が研修会に参加することでより、患者・市民参画への意欲を高め、自分たちができることから各々のモチベーションに繋がっていたことが示唆された。

2) 企画側からの評価

本研修会は研究班主催の初の対面式研修会ということで、日程調整、会場の準備、プログラム作成、講師手配、患者ファシリテーターの要請と協力や委託業者との調整等、多くの作業を経て実施に至った。『共に創る』ことを掲げた研修会であったが、企画運営には医療者（研究分担者）側や事務局が割くエフォートが大きく、班員である3名の患者委員を「企画する側として参画してもらう体制づくり」、患者協力者への「意思疎通や情報共有への橋渡し役」として動いてもらうための役割分担に課題が残った。医療者研究協力からの評価は、当日を初見で参加された医師たちであり、一步引いた立ち位置で客観的に研修会を評価していた。これらの【運営】、【内容】評価からは、初の対面研修会としての意義や多様な意見を聞くことができた貴重な学びの時間となったことがうかがえた。

全フィードバックをまとめると、「運営マニュアルの整備」が必要不可欠であり、医療者と患者委員と

で十分な打ち合わせが必須であること、企画から終了するまでのプロジェクトマネジメントの重要性が示唆された。今回は初の研修会であり、汎用性の問題は残るものの、これらの課題を明らかにできたことで、今後に繋がるものとする。

E. 結論

1. カリキュラム第2版による自学者用教育コンテンツ（動画）の評価については、研究班開発のサイト『がん研究 患者・市民参画マナビの広場』<https://plaza.umin.ac.jp/ppi-ed/>の広報と共に教育動画の紹介を進めることでより多くの患者や市民に、知っていただくための活動を今後も継続していく必要がある。このことにより、動画評価の視聴数も増えれば集計だけでない詳細な解析も可能となろう。視聴する側は、自分のペースで学習を進め、必要に合わせて視聴する動画を選択することが可能であるため今後の患者・市民参画の推進と連動する形で活用が進むことが望まれる。

2. 研究班主催の初の患者・市民参画を学ぶための対面研修会の企画と評価については、

- ・研修内容をシリーズ化し、回を分けて深める。
- ・研修後も学べる情報提供や、公式HPの活用を促進する。
- ・ファシリテーターも研修の評価項目を事前に把握し、運営に活かす。

これらの改善を進めることで、より分かりやすく、参加者のレベルや関心に応じた研修へと発展させることが可能であり、対面で研修会を行う意義は大きいと考える。

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Sugiyama N, Kinjo M, Jinno S, Cynthia de Luise, Morishima T, Higuchi T, Katayama K, et al., Validation of claims-based algorithms for rheumatoid arthritis in Japan: Results from the VALIDATE-J study. *Int J Rheum Dis.* 2024 Jan;27(1):e15001.
- 2) Asami Yagi, Satoshi Nakagawa, Yutaka

Ueda, Emiko Oka, Sayaka Ikeda, Mamoru Kakuda, Eiji Kobayashi, Yuri Ito, Kayoko Katayama, et al., Effectiveness of catch-up and routine program of the 9-valent vaccine on cervical cancer risk reduction in Japan. *Cancer Sci.* 2024 Mar;115(3):916-925.

- 3) Yinghan Xu, Masahiko Sakaguchi, Qun Jin, Shoji Nishimura, Kayoko Katayama, Mikiko Asai-Sato, Yutaka Ueda, Yuri Ito and Atsushi Ogihara. Content Analysis of Human Papilloma Virus Vaccine-Related Videos on YouTube in Japan. *J Consumer Health on the Internet.*

<https://doi.org/10.1080/15398285.2024.2416462>.

- 4) 片山佳代子. レギュラトリーサイエンスから見たデータサイエンス～がん研究に求められる患者・市民参画と教育プログラムの開発 レギュラトリーサイエンスから見た新しい人材育成～. *臨床評価.* 51 (3), 374-378. 2024.
- 5) 片山佳代子. がん登録とがん検診「がん検診の社会的課題とがん登録. *ESTRELA.* (特集) No,370,2-9.2025.

2. 学会発表

- 1) 片山佳代子, 阪口昌彦, 八木麻未, 佐藤美紀子, 扇原淳, 伊藤ゆり, 上田豊. HPVワクチン接種勧奨リーフレットの有効性を検証するための地域比較ランダム化試験の効果検証. 第35回日本疫学会学術総会ポスター発表. 2025年1月 (高知市)
- 2) 徐桜哈, 阪口昌彦, 片山佳代子, 扇原淳. 中国の動画サイトにおけるHPVワクチン関連動画のユーザーおよびコメント特性の分析. 第65回日本社会医学会 (ポスター発表) 2024年8月 (福岡)
- 3) 片山佳代子. 演題「患者・市民参画の推進と医療の質・安全」教育セッション招聘講演. 第1

9回医療の質・安全学会学術集会、2024年11月 (横浜)

- 4) 片山佳代子. 指定発言者として講演「誰一人取り残さないがん対策における格差のモニタリングと要因解明に資する研究」. *がん患者学会 2024.2024年11月* (築地：国立がん研究センター)
- 5) 片山佳代子. 依頼講演「はじめてのアンケート調査—どなたでもできる調査票の作り方とプレゼンテーション」—社：日本がん患者フォーラム2025 (FFJCP2025) 患者からみたゲノム医療の課題とエビデンスに基づいた政策提言について. 2025年1月 (品川)
- 6) 片山佳代子. 招聘『がん研究における患者・市民参画の推進に向けて』シンポジスト. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会. 2025年3月 (神戸)

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

がん研究に患者・市民が参画するためのカリキュラム第2版の評価と対面研修プログラムの開発

研究分担者

三森功士 / 九州大学病院別府病院 病院長 外科教授

研究協力者

藤田直也 / 公益財団法人がん研究会 がん化学療法センター 所長

【研究要旨】：がん研究における患者・市民参画を推進するために研究班で開発したカリキュラム第2版のカリキュラムコードを、日本癌学会主催の Survivor・Scientist Program (SSP) に付与して対面研修会を実施した。

A. 研究目的

本研究の目的は、日本癌学会が主催するサバイバー・科学者プログラム(SSPプログラム)を通じ、がんサバイバーおよび患者支援団体リーダーとがん基礎研究者との交流を促進し、患者支援活動の高度化およびがん研究の社会的還元を推進することである。

また、本プログラムに体系化されたカリキュラム・コードを付与することにより、複数学会における患者支援プログラム間の連携を深化させ、学術的かつ実践的な患者支援人材の育成を目指す。

B. 研究方法

2024年9月19日から21日に福岡国際会議場などを会場として開催された第83回日本癌学会学術総会において、日本癌学会主催のサバイバー・科学者プログラム(略称 SSPプログラム)を開催した(https://site.convention.co.jp/jca2024/ssp/ssp_participants/)。

第9回目の開催となる本年度のSSPプログラムでは、がん研究の専門家による最先端のトピックスのレクチャー(基礎講座)、患者会のリーダーからなるアドボケートメンターとのグループセッション、参加者によるポスター発表、そして本SSPプログラムを通じた学びを参加者自身がまとめて発表するグループプレゼンテーションに、本研究班で設定されたカリキュラム・コードを付与することで、3学会がそれぞれ行なっている患者支援プログラムが体系的に学べることができるような形式で実施した。具体的には、基礎講座にはコード：がん-1

を、アドボケートメンターとのグループセッションにはコード：参画-1、参画-2、研究-4を、参加者によるポスター発表にはコード：参画-1を、グループプレゼンテーションにはコード：がん-1、参画-1、参画-2を付与した。

(倫理面への配慮)

倫理的配慮が必要な内容は含んでいない。また、個人情報取り扱いはない。

C. 研究結果

第9回のSSPプログラムには7名が現地参加、そして17名がWebで聴講した。これら参加者に本SSPプログラム終了後にアンケート調査を実施した。ほとんどの方から未来のがん治療に資するがん研究がより発展することを祈念するなどの感想が多く寄せられた。

D. 考察

日本癌学会内でも、SSPプログラムに対する理解が進み、がんサバイバー・患者支援団体リーダーとがん基礎研究を行う科学者との協働は重要であるとの認識が浸透してきている。そうした甲斐もあり、これまで長く開催してきた市民公開講座と同じような重要な活動であるとして、日本癌学会・学術総会からも大きな支援を得られるようになってきている。しかし一方で、現地参加されるがんサバイバー・患者支援団体リーダーの人数はあまり増えてはおらず、毎年10人前後の参加に留まってしまっている。そこで、SSPプログラム

の認知度を上げるために、日本癌学会 HP 内に SSP プログラムの紹介ページを新たに設けるなど テコ入れを図っている

(https://www.cancer.or.jp/modules/public/index.php?content_id=65)。今後は、カリキュラム・コードを通じた体系的な学びとなるよう、カリキュラム・コードに 3 学会それぞれの患者支援プログラムのどこで学習・体験できるのかの情報を付与し、カリキュラム・コードから患者支援プログラムを検索できるようなシステム構築といった利便性の向上を図り、3 学会の患者支援プログラムを有機的に連携させていくことも重要ではないかと思われた。

また SSP プログラムは、がんの診断と治療の基盤となる基礎研究を深く理解することに力点をおいた患者会による理想的な活動である。しかしその一方で、基礎研究が如何に実臨床に応用されているのか？あるいは実際の臨床のなかでどのように基礎研究の成果が役に立っているのか？患者会の裾野を広げるためにも臨床的視点も必要なのではないか？たとえばがんの治療の 4 つのアームのなかで基礎研究とは最も距離のある外科では病変を体外に排出することで根治性が得られるが、外科手術の意義を基礎的視点で勘案するなど、患者会としても関心があるのではないか？このような考察もなされた。

E. 結論

がんサバイバー・患者支援団体リーダーと日本癌学会理事会の双方からの賛同のもとに、SSP プログラムの基礎講座などに本研究班のカリキュラム・コードを付与して開催できた。体系的な学びとなるよう、今後も SSP プログラムにカリキュラム・コードを付与していくこととなった。

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Suzuki M, Uchibori K, Oh-Hara T, Nomura Y, Suzuki R, Takemoto A, Araki M, Matsumoto S, Sagae Y, Kukimoto-Niino M, Kawase Y, Shirouzu M, Okuno Y, Nishio M, Fujita N, Katayama R. A macrocyclic kinase inhibitor overcomes triple resistant mutations in EGFR-positive lung cancer. NPJ Precis. Oncol., 2024 Feb 23;8(1):46.

- 2) Mimori K. A comprehensive summary of the impact of the COVID era on various gastrointestinal cancers. *Ann Gastroenterol Surg*. 2024 Apr 25;8(3):372-373. doi: 10.1002/ags3.12811.
- 3) Mimori K, Fujii T, Sho M, Endo I, Shirabe K, Kitagawa Y. Interview with Prof. Dr. Jeffrey Drebin, President of the 2024 President Elect of the American Surgical Association. *Ann Gastroenterol Surg*. 2024 Nov 22;9(1):24-31. doi:10.1002/ags3.12882.
- 4) Ando Y, Masuda T, Hayashi N, Kosai K, Shibuta S, Ono Y, Taro T, Otsu H, Hisamatsu Y, Yoshizumi T, Mimori K. SET-binding protein 1 (SETBP1) suppresses cell proliferation in estrogen receptor-positive breast cancer. *Breast Cancer*. 2025 Feb 20. doi: 10.1007/s12282-025-01667-w.

2. 学会発表

- 1) 高木聡, 藤田直也, 組織透明化技術を用いた骨肉腫肺転移巣の観察 第 33 回日本がん転移学会, 奈良, 6月, 2024年

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

がん研究に患者・市民が参画するためのカリキュラム第2版の評価と対面研修プログラムの開発

研究分担者

江口英利 / 大阪大学大学院医学系研究科消化器外科学 教授

勝俣範之 / 日本医科大学武蔵小杉病院腫瘍内科 教授

研究協力者

佐々木治一郎 / 北里大学医学部新世紀医療開発センター横断的医療領域開発部門臨床腫瘍学 教授

【研究要旨】：第62回日本癌治療学会学術集会のがん患者・支援者プログラム（PAL; Patient Advocate Leadership プログラム）および第22回日本臨床腫瘍学会学術集会のペイシェント・アドボケイト・プログラム（PAP; Patient Advocate Program）に、がん研究における患者・市民参画を推進するために研究班で開発したカリキュラム第2版のカリキュラムコードを付与する。

A. 研究目的

臓器横断的がん研究学術団体である日本癌治療学会（JSCO）および日本臨床腫瘍学会（JSMO）は、毎年開催されるそれぞれの学術集会において患者参画プログラムを開催している。JSCOのPALプログラムは、参加者が日本のがん医療やがん患者さん・ご家族支援の質を向上させるためのリーダーとして活躍していただくことを目的としている。JSMOのPAPは、参加者である患者・家族・市民と学会会員が、正しい情報を共有し、課題を抽出、議論することで、より良いがん医療の実現につながっていくことを目的としている。したがって、それぞれの患者参画プログラムの内容は異なる。

本研究の目的は、2024年度されたJSCOのPALプログラム（JSCO-PAL）およびJSMOのPAP（JSMO-PAP）に、本プログラムにより体系化されたカリキュラム・コードを付与することにより、複数学会において開催される患者参画プログラムの中の患者・市民参画推進のための教育効果を明確化し、それぞれのプログラム間の連携を深化させ、学術的かつ実施可能性の高い患者支援人材の育成に寄与することである。

B. 研究方法

2024年10月24日から26日の3日間、福岡で開催された第62回日本癌治療学会学術集会において、JSCO2024-PALを開催した（<https://congress.jsc>

[o.or.jp/jsc2024/index/page/id/155](https://congress.jsc)）。今回のJSCO2024-PALでは、講義形式のPALセミナーが4つ、ワークショップが2つ、加えて参加者のポスター発表が行われた。患者・市民参画推進の教育効果が高いプログラムであるワークショップは、1つが架空の臨床試験計画書と説明文書を用いて倫理審査委員になりきるという模擬倫理審査委員会、もう一つはアンケート調査を研究として計画するという内容であった。

2025年3月6日～8日の3日間、神戸で開催された第22回日本臨床腫瘍学学術集会において、JSMO2025-PAPを開催した（<https://site2.convention.co.jp/jsmo2025/pap/>）。今回のJSMO2025-PAPでは、講義形式の基礎講座4つ、応用講座3つ、特別企画7つ、緊急企画1つ、ワークショップ1つであった。ワークショップは架空の第Ⅲ相治験プロトコルを題材に参加者が自分ならこの治験に参加するかどうかや説明文書に何を求めるかを討論する内容であった。

本研究班で設定されたカリキュラム・コードを付与し、日本癌学会SSPプログラムと合わせ3学会がそれぞれ行なっている患者参画プログラムの内容を明確化し、複数の学会をまたいで参加する参加者が体系的に学べることができるようにした。具体的に付与したコードは資料6に示す。

	JSCO2024-PAL	JSMO2025-PAP
企画	学会の委員会・WG	外部委託（全がん連）
主催	学会委員会主催	学会集會
目的	日本のがん医療やがん患者さんご家族支援の質を向上させるためのリーダーとして活躍していただくことを目的	患者・家族・市民と会員が、正しい情報を共有し、課題を抽出、議論することで、より良いがん医療の実現につながることを目的
学術集會一般プログラム聴講	可（制限あり）	可（制限あり）
PP1関連プログラム	模擬倫理審査委員会、アンケート調査作成ワークショップ、PALセミナー、ポスター発表	臨床試験プロトコル解説ワークショップ、PAP基礎講座、PAP応用講座、PAP特別企画
付与コード	がん-1、がん-2、研究-1、研究-2、研究-3、研究-4、参画-1、参画-2、EB-2、EL-1	がん-1、研究-1、研究-2、研究-3、研究-4、参画-1、EL-1、EL-2

資料6：JSCO-PAPとJSMO-PALの比較

（倫理面への配慮）

倫理的配慮が必要な内容は含んでいない。また、個人情報取り扱いはない。

C. 研究結果

JSCO2024-PALには68名が現地参加し、JSMO2025-PAPには56名が現地参加、23名がWeb参加した。これら参加者に対しては、それぞれの学会でプログラムに関するアンケート調査を実施した。どちらのプログラムにおいても参加者の満足度は高く、特に参加型ワークショップに関しては学びになるとの意見がある一方、一部に難しいとの意見もあり、参加者の背景により参加者が感じるプログラムの難易度に差があった。

D. 考察

日本癌治療学会におけるPALプログラムは、日本における学術集會患者参画プログラムの先駆けであり、すでに10年以上継続して開催されている。特に、ワークショップ形式で行われる模擬倫理審査委員会やアンケート調査の研究計画立案体験などは、がん研究における患者・市民参画推進に直接繋がるコンテンツであり、参加者の学習意欲も高く、プログラム参加後の満足度も高い。継続的に開催することで、模擬倫理審査委員会を体験した参加者が実際に臨床研究審査委員会の委員になったケースも散見されるようになった。もう一つの側面として、医療者・研究者側への効果も見逃せない。模擬倫理審査委員会に参加した学会員、模擬倫理委員会を見学した学会員からは、患者・家族が研究計画書や説明文書を読むときの視点が理解できて、実際の研究立案や説明文書作成に役立ったとの意見がある。学術集會の患者参画プログラムに、学会員（一般学会参加者）を誘導することの意義は患者・市民参画推進において重要なポイントである。

日本臨床腫瘍学会におけるPAPは、企画運営が外部委託先である全国がん患者団体連合会（全がん連）であり、より患者・家族目線でのプログ

ラム構成になっている。JSMO2025-PAPにおいては、高額療養費制度に関する緊急企画が急遽開催され、学会員含む200名以上の参加者を集めた。ここでは、高額療養費制度の議論にとどまらず、医療者である学会員とPAP参加者（患者や家族）との間で、日本の医療費や医療政策全体に関する前向きな討論が行われた。患者・市民参画の推進は医学研究にとどまらず医療政策などにも生かされるべきであり、今回の機会は幅広い患者・市民参画の推進に寄与する好事例と考える。

JSCO-PAL、JSMO-PAPともにプログラムとしてはある程度成熟し、参加者への一定の教育効果が期待できるが、開催者である学会側に共通の課題があると考えられる。具体的には、以下の2点である。①一般学会員の患者・市民参画に関する意識・認識に大きな個人差がある。②患者参画プログラムの目的の共通理解が乏しい。医療者における患者・市民参画に関する意識、知識、実践の差が、臨床研究活動における患者・市民参画活動に、「形だけでも決まりに合わせることや単なる数合わせのみの見せかけの患者参画」という患者・市民参画上の新たな問題を引き起こしている。患者・家族・市民と医療者が同じテーマで議論をする場を持つこと自体が、この「見せかけの患者・市民参画」を予防する有効な手段である。医療者・研究者向けに患者・市民参画の意義や学術集會における患者参画プログラムの開催意義・目的を周知する活動が必要かつ重要と考える。

患者参画プログラムを参加者目線でみれば、患者・市民参画推進に向けて以下の3つの事項が必要になると考える。①学術集會においてPALやPAPの参加者が聴講できる学術集會本体プログラムに本研究班のカリキュラム・コードを付与する、②緊急企画やJSMO-PAPで行われたHighlight of the dayなどの当日内容が決定するプログラムに直前あるいは事後に本研究班のカリキュラム・コードを付与する、③参加者が獲得したカリキュラムコードの管理と獲得したカリキュラムコードで患者・市民参画活動への参加を推薦するシステムを構築する、ことである。これらの実現に向けて継続的な活動が必要と考える。

E. 結論

JSCO-PAL、JSMO-PAPの企画運営者の賛同のもとに、本研究班のカリキュラム・コードを付与して教育カリキュラムを実施できた。継続的かつ

体系的な学びとなるよう、今後も両プログラムにカリキュラム・コードを付与していくこととなった。

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Nakamura K, Hayashi H, Kawano R, Ishikawa M, Aimoto E, Mizuno T, Kuroda H, Kojima Y, Niikura N, Kawanishi A, Takeshita K, Suzuki S, Ueno S, Okuwaki K, Sasaki J, Yamaguchi M, Masuda K, Chiyoda T, Yamagami W, Okada C, Nohara S, Tanishima S, Nishihara H. BRCA1/2 reversion mutations in a pan-cancer cohort. *Cancer Sci.* 2024 Feb;115(2):635-647.
- 2) Miki T, Kamiya K, Hamazaki N, Nozaki K, Ichikawa T, Yamashita M, Uchida S, Noda T, Ueno K, Hotta K, Maekawa E, Sasaki J, Yamaoka-Tojo M, Matsunaga A, Ako J. Cancer history and physical function in patients with cardiovascular disease. *Heart Vessels.* 2024 Jul;39(7):654-663.
- 3) Ishikawa M, Nakamura K, Kawano R, Hayashi H, Ikeda T, Saito M, Niida Y, Sasaki J, Okuda H, Ishihara S, Yamaguchi M, Shimada H, Isobe T, Yuza Y, Yoshimura A, Kuroda H, Yukisawa S, Aoki T, Takeshita K, Ueno S, Nakazawa J, Sunakawa Y, Nohara S, Okada C, Nishimiya K, Tanishima S, Nishihara H. Clinical and Diagnostic Utility of Genomic Profiling for Digestive Cancers: Real-World Evidence from Japan. *Cancers (Basel).* 2024 Apr 15;16(8):1504.
- 4) Miyamoto Y, Kikuta J, Matsui T, Hasegawa T, Fujii K, Okuzaki D, Liu YC, Yoshioka T, Seno S, Motooka D, Uchida Y, Yamashita E, Kobayashi S, Eguchi H, Morii E, Tryggvason K, Shichita T, Kayama H, Atarashi K, Kunisawa J, Honda K, Takeda K, Ishii M. Periportal macrophages protect against commensal-driven liver inflammation. *Nature.* 2024 May;629(8013):901-909.
- 5) Ito Y, Yamada D, Kobayashi S, Sasaki K, Iwagami Y, Tomimaru Y, Asaoka T, Noda T, Takahashi H, Shimizu J, Doki Y, Eguchi H. The combination of gemcitabine plus an anti-FGFR inhibitor can have a synergistic

antitumor effect on FGF-activating cholangiocarcinoma. *Cancer Lett.* 2024 Jul 28;595:216997.

- 6) Yoshinobu Saito, Rei Yamaguchi, Takahiro Suzuki, Junpei Sato, Nobuhiko Nishijima, Sho Saito, Junichi Aoyama, Namiko Taniuchi, Masahiro Seike, Noriyuki Katsumata. Interstitial lung disease with prolonged fever that occurred during long-term administration of olaparib in a 74-year-old ovarian cancer patient: Radiological features and considerations for preventing delayed diagnosis *Radiol Case Rep* 2024 Mar 8;19(6):2100-2105.
 - 7) Akagi H, Katsumata N, Suzuki K, Masukawa K, Morita T, Kizawa Y, Tsuneto S, Shima Y, Miyashita M. Unapproved and unproven cancer treatments in patients admitted to palliative care units. *Support Care Cancer.* 2024 Dec 2;32(12):841
- ### 2. 学会発表
- 1) 佐々木治一郎, JSCO-PALが目指すものは・・・(パネリスト) 第62回日本癌治療学会学術集会. 患者連携・PALプログラムワーキンググループシンポジウム, 福岡, 10月, 2024年
 - 2) 佐々木治一郎, 学会・学術集会の役割(パネリスト). 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会. シンポジウム17, 神戸, 3月, 2025年
 - 3) 赤木秀子(日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科), 眞鍋恵理子, 松村博之, 勝俣範之, 蒔田益次郎, 伊藤良則. 患者のpCR率を高める! KE YNOTE 522でpCR率を高めるヒント(Get a high pCR rate with your patients! Tips for increasing it in KEYNOTE 522). 日本乳癌学会総会32回 P.320(2024.07)
 - 4) 勝俣範之. SDMを推進するためには。第37回日本放射線腫瘍学会学術大会2024.11.23 於:パシフィコ横浜ノース
 - 5) 赤木秀子(日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科), 佐藤真帆, 窪野裕久, 川村 真理, 鈴木 浩太郎, 勝俣範之. 免疫チェック阻害剤の眼所見の副作用はどの位起こるのだろうか?その対処法は?(会議録/英語) 日本癌治療学会学術集会抄録集62回 P O53-4(2024.10)
 - 6) 西尾真(Kurume University Hospital), 尾松公平, 濱西潤三, 勝俣範之, 澤田健二郎, 竹内

聡, 青木大輔, 藤原恵一, 杉 徹, 小西郁生. プラチナ製剤抵抗性(進行または再発)卵巣癌患者のニボルマブ治療に関するバイオマーカー分析. NINJA試験(Biomarker analysis for nivolumab treatment in patients with platinum-resistant (advanced or recurrent) ovarian cancer: NINJA trial)(会議録/英語 日本癌治療学会学術集会抄録集62回 P. FR2-3(2024.10))

- 7) 澤田健二郎(Osaka University Hospital), 尾松 公平, 濱西潤三, 勝俣範之, 西尾真, 竹内聡, 青木大輔, 藤原恵一, 杉山徹, 小西郁生. プラチナ製剤抵抗性(進行または再発)卵巣癌患者を対象としたニボルマブ治療に関連する安全性情報に基づくサブグループ解析. NINJA試験(Sub-group analysis by safety information associated with nivolumab treatment in patients with platinum-resistant(advanced or recurrent) ovarian cancer: NINJA trial)(会議録/英語) 日本癌治療学会学術集会抄録集62回 P. FR2-2(2024.10))

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

- | | |
|-----------|----|
| 1. 特許取得 | なし |
| 2. 実用新案登録 | なし |
| 3. その他 | なし |

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
有賀悦子	がん医療(抗がん治療から緩和ケアまで)の Shared Decision-Making	癌と化学療法	51 (9)	857-861	2024
有賀悦子	がん研究とがん医療における患者・市民参画の取り組み	乳癌の臨床	39 (2)	121-128	2024
勝俣 範之	Urological Pharmacotherapy これ一冊でパーフェクト!! 泌尿器科薬物療法2024	泌尿器外科	37巻特別号	171-173	2024
勝俣範之	時間がない外来でのACP	緩和ケア	2024年5月号	231-236	2024
勝俣範之	希少がんに対する治療の進歩-婦人科がん,泌尿器がん,肉腫,脳腫瘍,皮膚がんなど-	腫瘍内科	34(4)	401-404	2024
勝俣範之	Evidence Update 2025-最新の知見から日々の臨床をアップデートする	治療	107(2)	238-242	2025
渡邊清高	がんゲノム医療	脊椎脊髄ジャーナル	37(10)	871-878	2024
渡邊清高	がん患者さんとご家族をつなぐ	在宅療養ガイド			2024
渡邊清高	日本がんサポーターケア学会は何を目指すのか?	腫瘍内科	33(1)	12-16	2024
片山佳代子	レギュラトリーサイエンスからみたデータサイエンス～がん研究に求められる患者・市民参画と教育プログラムの開発 レギュラトリーサイエンスからみた新しい人材育成～	臨床評価.	51(3)	374-378	2024
片山佳代子	がん登録とがん検診「がん検診の社会的課題とがん登録	ESTRELA. (特集)No,370		2-9	2025
片野田耕太	わが国のがんサバイバーの現状—統計データから	臨床栄養	145(5)	576-581	2024
片野田耕太	女性のライフコース疫学研究「日本ナースヘルス研究(JNHS)」のすべて【出生時体重,若年時体型と2型糖尿病	産科と婦人科	91(5)	507-513	2024
片野田耕太	【健康日本21(第三次)推進に向けたアクションプランの提案-栄養・食生活,身体活動,たばこの3分野について-】たばこ対策のロジックモデルとアクションプラン(総論)	日本健康教育学会誌 32(特別号)		S94-S101	2024
片野田耕太	【健康日本21(第三次)推進に向けたアクションプランの提案-栄養・食生活,身体活動,たばこの3分野について-】たばこ対策のロジックモデルとアクションプランの例 成人・妊婦の喫煙率減少	日本健康教育学会誌 32(特別号)		S102-S111	2024
片野田耕太	【健康日本21(第三次)推進に向けたアクションプランの提案-栄養・食生活,身体活動,たばこの3分野について-】たばこ対策のロジックモデルとアクションプランの例 職域のたばこ対策	日本健康教育学会誌 32(特別号)		S112-S120	2024

片野田耕太	【健康日本21(第三次)推進に向けたアクションプランの提案-栄養・食生活,身体活動,たばこの3分野について-】たばこ対策のロジックモデルとアクションプランの例 受動喫煙対策	日本健康教育学会誌	32(特別号)	S121-S130	2024
-------	--	-----------	---------	-----------	------

動画（Web ラーニング）一覧

がん研究
患者・市民参画 マナビの広場

患者・市民参画と広場ができるまで このサイトでできること 研究略について 受講者向け一覧 研修企画者はこちら

カリキュラムの紹介
WEBラーニング
用語集
研究会一覧
外部学習コンテンツ

せいかく
厚生労働省科学研究費補助金による研究班が作りました
だから、より正しい知識を学ぶことができます

こうか的
どの範囲の何を学ばよいか、学びの道しるべをカリキュラムといいます。
カリキュラムに基づいているので、計画的・効果的に学べます。

きがるに
ID・パスワードの登録はいりません。

サイトの使い方 Webラーニング 用語集 外部学習コンテンツ 研究会

カリキュラムを基にした
研究会の開催方法
2020年10月15日現在
最新研修の開催
YouTubeへのリンク

ホームページトップ画面

がん研究
患者・市民参画
≡
マナビの広場

WEBラーニング一覧

※カリキュラム横記載の時間は動画のおおよその時間です。

参画
参画

参画 - 市民参画するには

- 参画-1: 興味 【30分】
- 参画-2: 参画チャレンジと意見交換 【49分】

がん
がん

がん - がんを初55

- がん-1: 腫瘍学 (肺がん) 【37分】
- がん-1: 腫瘍学 (乳がん) 【21分】
- がん-1: 腫瘍学 (胃がん) 【22分】
- がん-1: 腫瘍学 (希少がん) 【27分】
- がん-1: 腫瘍学 (高齢者とがん) 【32分】
- がん-1: 腫瘍学 (AYA世代とがん) 【16分】

- がん-2: 社会医学 (がん予防) 【23分】
- がん-2: 社会医学 (がん検診) 【33分】
- がん-2: 社会医学 (サバイバーシップ) 【22分】
- がん-2: 社会医学 (がんと社会) 【34分】

研究
研究

研究 - がん研究ってどんなこと?

- 研究-1: なぜ研究が必要なのか 【1時間11分】
- 研究-2: アウトラインと計画 (研究計画書の見方) 【22分】
- 研究-2: アウトラインと計画 (治療開発の実際) 【25分】
- 研究-3: 研究方法とデザイン (研究計画書の見方) 【29分】
- 研究-3: 研究方法とデザイン (治療開発の実際) 【26分】
- 研究-4: データ管理と公表 【15分】

統計
統計

統計 - 医療統計に慣れよう

- 統計-1: 統計用語 【27分】

EB
EB

EB - 科学的根拠を基盤として

- EB-1: 科学的根拠とガイドライン 【11分】
- EB-2: 情報リテラシー 【19分】

EL
EL

EL - がん医療・研究に関わる個人の権利を保護し

- EL-1: がん医療の倫理 【28分】
- EL-2: がん医療の関連法規 【20分】

がん研究
マナビの広場

Web ラーニング一覧

カリキュラムコード	到達目標	e-ラーニングの概要 (WGで作成した構成案)	演者・登壇者	所属
参画-1 興味	患者・市民参画のモチベーションを高める。	患者・市民参画の様々な取り組みについての語りの動画を通して、患者・市民の役割について理解する。 【座談会形式】	司会：渡邊清高先生 登壇者：有賀悦子先生 桜井なおみ氏 (発言順)	帝京大学医学部内科学講座病院長 帝京大学医学部緩和医療学講座教授 キャンサーソリューションズ株式会社代表取締役社長
参画-2 参画チャレンジと意見交換	患者・市民の参画にチャレンジし、建設的な意見交換ができる。	参画にあたり守ること(発言マナー、時間を守る、適切なメンバーに報告・相談を行う、研究内容の守秘など)。コミュニケーションスキルの重要性。 【座談会形式】	司会：渡邊清高先生 登壇者：有賀悦子先生 桜井なおみ氏 天野慎介氏 樋口麻衣子氏 片野田耕太先生 片山佳代子先生 (発言順)	帝京大学医学部内科学講座病院長 帝京大学医学部緩和医療学講座教授 キャンサーソリューションズ株式会社代表取締役社長 全国がん患者団体連合会理事長 AYAがんの医療と支援のあり方研究会理事 国立がん研究センターがん対策研究所部長 群馬大学情報学部准教授
がん-1 腫瘍学	がん(腫瘍学)について、自らのベースで知識を深めていくことができる	がんについて知識を深める(診断・治療・主な研究・トピックス) 【講義形式】	【肺がん】 佐々木治一郎先生	北里大学医学部新世紀医療開発センター教授
			【乳がん】 佐治重衛先生	福島県立医科大学医学部腫瘍内科講座主任教授
			【胃がん】 寺島雅典先生	静岡県立静岡がんセンター副院長
			【希少がん】 川井章先生	国立がん研究センター中央病院 希少がんセンター長
			【高齢者とがん】 田村和夫先生	福岡大学名誉教授
			【AYA世代とがん】 清水千佳子先生	国立研究開発法人国立国際医療研究センター病院 がん総合診療センターセンター長
がん-2 社会医学	がんに関する社会医学について、自らのベースで知識を深めていくことができる。	がんに関する社会医学について知識を深める(予防・検診・サバイバーシップなど) 【講義形式】	【がん予防】 井上真奈美先生	国立がん研究センター がん対策研究所副所長
			【がん検診】 中山富雄先生	国立がん研究センター がん対策研究所検診研究部部長
			【サバイバーシップ】 高橋都先生	NPO法人日本がんサバイバーシップネットワーク 代表理事
			【がんと社会】 後藤励先生	慶応義塾大学大学院経営管理研究科教授
研究-1 なぜ研究が必要なのか	なぜ研究が必要なのか? 研究という営みについて理解する。	研究の進歩により、医療がどう変わるか。具体的な事例(治療開発・支持医療・社会的な研究・サバイバーシップなど) 【座談会形式】	司会：有賀悦子先生 登壇者：渡邊清高先生 片山佳代子先生 桜井なおみ氏 天野慎介氏 樋口麻衣子氏 片野田耕太先生 (発言順)	帝京大学医学部緩和医療学講座教授 帝京大学医学部内科学講座病院長 群馬大学情報学部准教授 キャンサーソリューションズ株式会社代表取締役社長 全国がん患者団体連合会理事長 AYAがんの医療と支援のあり方研究会理事 国立がん研究センターがん対策研究所部長
			治療開発フェーズの目的と課題、ブルーフォンプコンセンソのタイミング、創薬に要する費用総額など、デジタル医療機器やプログラム承認と薬剤との違い 研究計画書の構成 【講義形式】	【研究の基本設計図とPICO・PECO】 片山佳代子先生 佐々木治一郎先生
研究-2 アウトラインと計画	研究を遂行するための研究構造(アウトライン)を理解し、研究計画がどのように立案されるのかを理解する	観察研究(社会医学研究)、代表的な研究方法・研究計画・PICO/PECOなどの解説、レイサマリー・研究計画書、研究倫理委員会審査文書、研究費獲得文書などで登場する主な用語の解説 【講義形式】	【研究のデザインの基本】 片山佳代子先生	群馬大学情報学部准教授
			佐々木治一郎先生	北里大学医学部新世紀医療開発センター教授
研究-3 研究方法とデザイン	研究方法とデザインについて質問できる。	観察研究(社会医学研究)、代表的な研究方法・研究計画・PICO/PECOなどの解説、レイサマリー・研究計画書、研究倫理委員会審査文書、研究費獲得文書などで登場する主な用語の解説 【講義形式】	【研究のデザインの基本】 片山佳代子先生 佐々木治一郎先生	群馬大学情報学部准教授 北里大学医学部新世紀医療開発センター教授
研究-4 データ管理と公表	研究データ安全管理と研究成果の公表と活用について理解する	研究データの管理、成果の公表と活用、レイサマリー守秘義務や個人情報保護への対応など 【講義形式】	佐野裕亮先生	国立がん研究センター中央病院 臨床研究支援部門
統計-1 統計用語	医療統計の言葉に触れる体験をしよう。	実際の論文や研究をモデルに統計用語を解説していただけたとありがとうございます。 バイアス、有意差、オッズ比/リスク比/ハザード比など 【講義形式】	柴田大朗先生	国立がん研究センター 研究支援センター生物統計部長
EB-1 科学的根拠とガイドライン	がん研究で得られた科学的根拠がガイドライン等を通してどのように意思決定に用いられるか知ろう。	科学的根拠(EBM)の用語説明、ガイドラインの目的、臨床疑問、推奨などの構造 ガイドライン作成への患者市民参画 臨床現場でのガイドライン活用例など 【講義形式】	片野田耕太先生	国立がん研究センター がん対策研究所部長
EB-2 情報リテラシー	確かな情報を見分けよう。 情報リテラシーの重要性を知ろう。	情報の確からしさを高める方法、臨床試験情報の探し方や教育研修の紹介 主な論文の種類 【講義形式】	渡邊清高先生	帝京大学医学部内科学講座教授
EL-1 がん医療の倫理	医療倫理・研究倫理、利益相反、個人情報保護について学ぶ。	医療倫理・研究倫理・インフォームドコンセントの説明 被験者(臨床研究)や動物(基礎研究)の保護、被験者の利益、不利益利益相反、個人情報保護の基本的な事項など 【講義形式】	田代志門先生	東北大学大学院文学研究科 総合人間学専攻社会人間学講座准教授
EL-2 がん医療の関連法規	その時代の最新のものを学ぶ。 がん対策基本法、薬機法、がん登録推進法、健康保険法(診療報酬、保険適応内外)、介護保険法、臨床研究法、倫理指針、健康増進法、労働安全衛生法、公的医療保険制度、高額医療費制度、患者申出医療制度等	主にがん研究(研究開発/社会学的研究)に関連した解説、ゲノム医療法・個人情報保護法など	松田智大先生	国立がん研究センター がん対策研究所国際政策研究部部長

カリキュラム・コードを適応させた専門研修（対面研修）

資料 2-1 第83回日本癌学会学術総会 SSPプログラム

第83回 日本癌学会学術総会 SSP（サバイバー科学者）プログラム	
1 日目	
8:00 - 8:30	参加受付
8:30 - 8:50	アドボケートメンター【注 1】によるオリエンテーション 天野 慎介 グループ・ネクサス・ジャパン 桜井 なおみCSRプロジェクト 眞島 喜幸 バンキャンジャパン 大西 啓之 NPO法人キュアサルコーマ 馬上 祐子 一般社団法人日本希少がん患者会ネットワーク、小児脳腫瘍の会
8:50 - 9:00	開会式@メインホール
9:00 - 9:50	SSP プログラム開会挨拶 藤田 直也 がん研究会 がん化学療法センター Margaret FotiAACR : American Association for Cancer Research SSP プログラムの概観 眞島 喜幸バンキャンジャパン SSP プログラムのナビゲーション 大西 啓之NPO法人キュアサルコーマ
9:50 - 11:10	学術総会口演の聴講
11:10 - 12:00	SSP基礎講座：全ゲノム解析（オミックス）（仮） コード：がん-1 鈴木 絢子東京大学新領域創成科学研究科
12:00 - 12:50	SSP 基礎講座：抗体医薬 コード：がん-1 安永 正浩国立がん研究センター先端医療開発センター・新薬開発分野
12:50 - 16:10	学術総会口演の聴講

16:10 - 17:00 **SSP 基礎講座：核酸治療薬**

コード：がん-1

近藤 豊名古屋大学大学院医学系研究科

17:00 - 17:10 **初日のまとめ**

天野 慎介グループ・ネクサス・ジャパン

2日目

8:30 - 9:00 **SSPプログラム参加者によるポスター掲示【注2】**

9:00 - 11:10 **学術総会口演の聴講**

11:10 - 12:00 **SSP基礎講座：診断薬のこれから**

コード：がん-1

植田 幸嗣がん研究会 がんプレジジョン医療研究センター

12:00 - 12:50 **SSP基礎講座：AIを用いたがん診断・創薬**

コード：がん-1

浜本 隆二国立がん研究センター研究所

12:50 - 13:50 **アドボケートメンターとのグループセッション**

コード：参画-1、参画-2、研究-4

桜井 なおみCSR プロジェクト

眞島 喜幸 パンキャンジャパン

13:50 - 16:30 **学術総会口演の聴講及びポスターディスカッションの（発表）準備**

16:30 - 18:00 **SSPプログラム参加者によるポスターディスカッション（発表）【注2】**

コード：参画-1

18:00 - 18:30 **SSPプログラム参加者によるポスター撤去**

18:30 - 18:40 **2日目のまとめ**

天野 慎介グループ・ネクサス・ジャパン

19:30 - 21:30 **名誉会員・評議員合同懇親会**

(※) SSPプログラム参加者は全員参加となります

3日目

9:00 - 9:50 **SSP 基礎講座：がん研究の歴史（仮）**

コード：研究-1

野田 哲生がん研究会 がん研究所

9:50 - 12:00 **学術総会口演の聴講**

12:00 - 13:50 **昼食及びグループ・プレゼンテーションの準備**

13:50 - 15:10 **学術総会口演の聴講**

15:10 - 16:10 **グループ・プレゼンテーション【注3】**

コード：がん-1、参画-1、参画-2

グループ1のテーマ

「核酸治療薬の将来展望」

グループ2のテーマ

「抗体医薬の最新モダリティ（ADC、Bispecific、BiTEを含む）」

16:10 - 16:40 **修了証書授与式**

閉会挨拶

藤田 直也がん研究会 がん化学療法センター

資料 2 - 2 第62回日本癌治療学会学術集会 PALプログラム

10月24日(木)		
オリエンテーション1	8:00~8:30	
オリエンテーション2	11:30~12:00	
PAL セミナー1	12:20~13:00	<p>がん医療にかかわる医学物理士の役割 コード: がん-1</p> <p>橋英伸先生(国立がん研究センター東病院放射線品質管理室室長)</p> <p>医学物理士とは、放射線治療の安全はどうやって確保するのかを 知りましょう。</p>
PAL セミナー 2	13:20~14:00	<p>がん治療とアレルギー コード: がん-1</p> <p>藤井千賀先生(堺市立総合医療センター薬剤科)</p> <p>がん治療で見られるアレルギーの症状や対策法について知りま しょう。</p>
ワークショップ1	14:30~16:00	<p>ラウンドテーブルディスカッション模擬倫理審査委員会 コード: 研究-1~4</p> <p>佐々木治一郎先生(北里大学医学部附属新世紀医療 開発センタ ー・横断的医療領域開発部門臨床腫瘍学教授)</p> <p>全田貞幹先生(国立がん研究センター先端医療開発センター・粒 子線医学開発分野)</p> <p>研究への参画の一つに、研究倫理審査委員会等への委員として の出席があります。ここでは研究計画書の見方を学習した後に、 模擬倫理審査委員会に市民・患者委員として参加することで、研 究計画に対して質問したり意見を言ったりするという体験をし ます。</p> <p>この体験は、臨床研究そのものの理解を深めるだけでなく、なぜ 研究に市民・患者の意見が必要なのかを知る良い機会になるで しょう。</p>
ミニポスター交流会	16:30~17:30	<p>コード: 参画-1</p> <p>応募フォームに記載された内容を会場に展示しま す。参加者同 士が互いの活動を知り、連携や PPI について話しあう交流会で す。</p> <p>医療者や研究者との協働のきっかけにもしていただけます。</p>
10月25日(金)		
オリエンテーション3	8:00~8:30	
オリエンテーション4	11:30~12:00	
PAL セミナー 3	12:20~13:00	<p>地域医療構想+働き方改革で何が変化するのか</p> <p>竹原徹郎先生(大阪大学大学院医学系研究科内科系臨床医学専攻 消化器内科学教授)</p> <p>医療環境の変化(こよる患者や家族への影響、患者・支援者が知 っておくべきこと、できることは何かを考えましょう。</p>

PAL セミナー 4	13 : 20 ~14 : 00	がんと経済毒性 コード:がん-2 本多和典先生(愛知県がんセンター薬物療法部医長) 経済毒性とはなにか、どんなサポートがあるのか、患者ができる事は何か、などを考えましょう。
ワークショップ 2	16 : 20 ~17 : 50	アンケート調査項目をつくってみよう(患者団体での調査) コード:参画-2,研究-3,EB-2,EL-1 有賀悦子先生(帝京大学医学部緩和医療学講座) 片山佳代子先生(群馬大学情報学部) 患者参画をテーマにして、研究にも触れつつ、実際に望ましいアンケートとはどのようなものか体験するセッションです。
10月26日(土)		
ポスターセッション	11:00~12 : 00	掲示した紙ポスターを囲んで発表し討論する。
PAL 意見交換会	12 : 30 ~13 : 40	ポスター賞・奨励賞の表彰式 「医療者の当り前と患者の理解のギャップ～意思決定を妨げる言葉～」 医療者と患者・家族の理解のギャップにはどういふことがあるか、それをなくすにはどうしたらいいか考えましょう。

資料2-3 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会 PAP

第1日目 3月6日(木)

8:40~8:55	オリエンテーション①
9:00~9:45	PAP特別企画①「パネルディスカッション：患者の声を聴く」 パネリスト PAP出席者のパネリスト
10:00~10:45	PAP基礎講座①「遺伝性腫瘍の診療はどこまで進んだのか」【カリキュラムコード：がん-1】 講師 櫻井 晃洋（札幌医科大学医学部 遺伝医学）
11:00~11:45	PAP特別企画②「企業におけるがん患者の就労支援～がん経験者コミュニティ活動」【カリキュラムコード：がん-2】 講師 桜井 なおみ（一般社団法人CSRプロジェクト）
12:00~12:45	ランチョンセミナー①「がん薬物療法のコストを評価する～JCOG医療経済小委員会の活動から」 司会 天野 慎介（一般社団法人グループ・ネクサス・ジャパン） 講師 後藤 悌（国立がん研究センター中央病院 呼吸器内科）
13:00~13:50	緊急企画「みんなで考えよう、高額療養費制度」 講師 坂本 はと恵（国立研究開発法人国立がん研究センター東病院サポーターケアセンター）
14:00~14:45	PAP基礎講座②「発熱性好中球減少症（FN）診療ガイドラインの改訂～最新のエビデンス」【カリキュラムコード：がん-1】 講師 冲中 敬二（国立がん研究センター東病院 感染症科）
15:00~15:45	PAP基礎講座③「がんサバイバーの心臓を守る～カルディオオンコロジー（腫瘍循環器）とは」【カリキュラムコード：がん-1】 講師 高野 利実（がん研有明病院 乳腺内科）
16:00~16:45	PAP特別企画③「Highlights of the day～学術集会1日目のポイント」 司会 渡邊 清高（帝京大学医学部内科学講座 腫瘍内科） パネリスト 勝俣 範之（日本医大武蔵小杉病院 腫瘍内科） 佐々木 治一郎（北里大学医学部 新世紀医療開発センター横断的医療領域開発部門臨床腫瘍学） 西森 久和（広島市立広島市民病院 血液内科）

第2日目 3月7日 (金)

8:20~8:35	オリエンテーション②
8:40~9:25	PAP特別企画④「医療 AI がひらくがん医療の未来」【カリキュラムコード：がん-1】 講師 浜本 隆二（国立がん研究センター研究所 医療AI研究開発分野）
9:40~10:25	PAP基礎講座④「パネルディスカッション：がん薬物療法専門医の役割と未来」【カリキュラムコード：がん-1】 講師 田村 研治（島根大学医学部附属病院 腫瘍内科） 谷崎 潤子（近畿大学医学部内科学教室 腫瘍内科部門）
10:40~11:25	PAP基礎講座⑤「血液検査で分かるがんの診断～リキッドバイオプシーの世界」【カリキュラムコード：がん-1】 講師 中村 能章（国立がん研究センター東病院）
11:40~12:25	ランチョンセミナー②「高齢がん患者への意思決定支援」 司会 香留 美菜（徳島県がん患者団体協議会） 松本 陽子（NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会） 講師 小川 朝生（国立がん研究センター東病院 精神腫瘍科）
15:00~15:45	PAP特別企画⑤「がん研究における患者・市民参画の推進に向けて」【カリキュラムコード：参画-1】 講師 有賀 悦子（帝京大学医学部緩和医療学講座 緩和ケア内科）
16:00~16:45	PAP特別企画⑥「ゲノム医療で推奨された保険適応外薬をどのように使うか？」【カリキュラムコード：がん -1、EL-2】 講師 池田 貞勝（東京科学大学病院 がんゲノム診療科）
17:00~17:45	PAP特別企画⑦「Highlights of the day～学術集会2日目のポイント」 司会 渡邊 清高（帝京大学医学部内科学講座 腫瘍内科） パネリスト 勝俣 範之（日本医大武蔵小杉病院 腫瘍内科） 佐々木 治一郎（北里大学医学部 新世紀医療開発センター横断的医療領域開発部門臨床腫瘍学） 西森 久和（広島市立広島市民病院 血液内科）

第3日目 3月8日(土)

8:00~8:15	オリエンテーション③
8:30~9:20	PAP応用講座①「治験を含む臨床試験の枠組みについて」【カリキュラムコード：研究-1・2】 講師 藤原 紀子（東京大学医科学研究所附属病院 先端緩和医療科）
9:30~10:20	PAP応用講座②「臨床試験と倫理指針について」【カリキュラムコード：EL-1】 講師 竹下 啓（東海大学医学部 医療倫理学領域）
10:30~11:20	PAP応用講座③「治験に参加する前に知っておいて欲しいこと」【カリキュラムコード：研究-3・4】 講師 佐々木 治一郎（北里大学医学部 新世紀医療開発センター横断的医療領域開発部門臨床腫瘍学）
12:00~12:50	ランチョンセミナー③「最新の肺がん治療と意思決定支援の重要性」 司会 長谷川 一男（NPO法人肺がん患者の会ワンステップ） 講師 佐々木 治一郎（北里大学医学部 新世紀医療開発センター横断的医療領域開発部門臨床腫瘍学）
14:00~16:10	PAP応用講座④「グループディスカッション この治験、あなたなら参加しますか？」【カリキュラムコード：研究-1・2・3・4】 講師 佐々木 治一郎（北里大学医学部 新世紀医療開発センター横断的医療領域開発部門臨床腫瘍学） ファシリテーター 久米 恵江（北里研究所病院 看護部） 鋸持 喜之（勤医協中央病院 呼吸器内科・総合内科） 高濱 隆幸（近畿大学 腫瘍内科/ゲノム医療センター） 手塚 葵（医薬品医療機器総合機構） 番匠 章子（北里大学病院 看護部 看護管理室） 前田 実花（北里大学薬学部 臨床薬剤疫学/北里大学病院 HRP室・薬剤部） 三浦 理（新潟県立がんセンター新潟病院 内科） 三浦 里緒（東京都立大学健康福祉学部 看護学科 成人看護学領域 人間健康科学研究科 看護科学域） 山本 明子（北里大学病院 臨床研究推進センター） 全国がん患者団体連合会

資料2-4 第9回日本サポーターケア学会学術集会

9:40~11:10

ワーキンググループ企画4

S P 第5会場

がんサバイバーのニーズに基づいたサバイバーシップ関連情報の内容と発信はどうあるべきか

座長：高橋 都 (NPO法人日本がんサバイバーシップネットワーク)

佐々木治一郎 (北里大学医学部新世紀医療開発センター 横断的医療領域開発部門 臨床腫瘍学)

WG4-1 よりよく生きるための、サバイバーシップ情報と研究の未来像

一般社団法人CSRプロジェクト/キャンサーソリューションズ株式会社 桜井なおみ

WG4-2 がんが治っても“なぜこんなに苦しいのだろう”～ピアサポート活動の意義と展開の難しさ～

認定NPO法人オレンジティ 矢後 綾子

WG4-3 がんサバイバーのニーズに基づいた情報発信：情報支援サイト『AYA世代のがんとくらしサポート』運営における研究者の学び

武蔵野大学 看護学研究所 土屋 雅子

WG4-4 がん情報を取り巻く環境の変遷と民間がん情報サイトの役割 ～患者主導ではない、ネット上の支援団体の立場から～

3Hメディソリューション株式会社/エムスリー株式会社 可知 健太

参画-1 興味 参画-2 参画チャレンジと意見交換 EB-2 情報リテラシー

17:50~19:00

PPI (患者・市民参画) セッション1

P 第1会場

患者・市民参画 (PPI) によるがんサポーターケア臨床研究に挑戦する

座長：桜井なおみ (一般社団法人CSRプロジェクト)

太良 哲彦 (相良病院 腫瘍内科・緩和ケア科)

PPI1-1 サポーターケアにおける患者・市民参画と学会への期待

一般社団法人全国がん患者団体連合会 天野 慎介

PPI1-2 患者・市民参画があるサポーターケア臨床研究はここが違う

昭和大学保健医療学部 渡邊 知映

PPI1-3 乳がん患者の再発恐怖軽減のためのスマホアプリの開発と有用性の検証：PPIの役割と期待

名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知・行動医学分野 明智 龍男

PPI1-4 拳児希望のある乳がん術後女性がホルモン療法を中断して妊娠を試みる国際共同研究 POSITIVE試験に参加して

がん研究会有明病院 乳腺センター 乳腺外科 片岡 明美

参画-1 興味 参画-2 参画チャレンジと意見交換 研究-1 なぜ研究が必要なのか

16:50~18:00

会長提案企画3

S P 第6会場

JASCC版「地域の患者さん支援のための情報づくりと普及プランを考える研修会」

座長：増田 昌人（琉球大学病院 がんセンター）
轟 浩美（認定NPO法人 希望の会）

PP3-1 北海道における情報づくりから、ネットワークづくりへ

北海道がんセンター がん相談支援センター 木川 幸一

PP3-2 患者さんの役に立つ地域の情報づくりと普及について—「おきなわ がんサポート ハンドブック」編集・発行・無料配布14年間の経験を中心に—

琉球大学病院 がんセンター 増田 昌人

PP3-3 当事者として、地域の情報と連携に期待すること

NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会 松本 陽子

参画-1 興味 参画-2 参画チャレンジと意見交換 EB-2 情報リテラシー

17:20~18:30

会長提案企画2

S P 第4会場

がん研究の情報発信はどうあるべきか（メディアドクター研究会との協働企画）

座長：大野 智（島根大学医学部附属病院 臨床研究センター）
岸田 徹（NPO法人がんノート）

PP2-1 信頼できる医療・健康情報をどう探すか（医学図書館司書の視点から）

千葉県済生会習志野病院 図書室 佐藤 正恵

PP2-2 ちまたにあふれるがん情報をどう読み解くか

京都薬科大学 非常勤講師 北澤 京子

PP2-3 がん研究や医療の情報発信のあり方を患者目線で考える

NPO法人がんノート 岸田 徹

PP2-4 分かりやすい情報の伝え方について考える

国立がん研究センター中央病院 石木 寛人

参画-1 興味 EB-2 情報リテラシー

AYA研・JASCC 合同企画「みんなでがん教育に取り組もう！」

座長：楠木 重範(遊育園こどもクリニック)
高野 利実(がん研究会有明病院)

PSP2-1 がん教育で授業する際に意識していること～がん経験者の立場から～

NPO 法人がんノート 岸田 徹

PSP2-2 がん教育の外部講師ってどんなことするの？ー未来を生きる子どもたちへーがん専門医編

国立国際医療研究センター がん総合診療センター サバイバーシップ支援科 谷山 智子

PSP2-3 学校だけじゃないがん教育 ～AYA Week 2024 教育チームの取り組み～

医療法人財団はるたか会訪問看護ステーションあおぞら京都 宗 皓

メイプル薬局 梶 文祥

聖マリアンナ医科大学 竹内 愛莉

fLy 田中 芙美

遊育園こどもクリニック 楠木 重範

がん研究会有明病院 高野 利実

みんなで創る！

がん研究のための患者・市民参画研修会

〔第1回〕

日時
2024年
7月20日
土曜日

会場
AP東京丸の内
会議室EFG

東京都千代田区
丸の内1-1-3
日本生命丸の内
ガーデンタワー 3F

参加料
無料

対象者
がん経験者
(ご家族を含む)
一般市民

1 午前の部 9:30~12:15 : 講義・質疑応答・演習

参画が医療を変える・
建設的な意見交換ができる

なぜ研究が
必要なのか？

患者・市民参画するために！
自分が目指す参画について考える

2 午後の部 13:30~17:05 : 講義・グループワーク

がん研究について
知ろう

最新の
がん研究の知見

がんについて
知ろう

模擬研究倫理審査会参画を
体験してみよう！

根拠に基づいた
キャッチコピー作成に参画しよう！

臨床研究プロトコルを
読み解く

- 事前参加登録 6月5日(水)~7月10日(水) Web受付
- お問い合わせ先 registration@dofmet.or.jp
- 研究班のアンケートにご協力をお願いします。

参加コース

- ① 午前のみ参加 ② 午後のみ参加 ③ 1日参加(午前+午後)
- ④ 午前参加+午後見学(グループワーク見学)

本セミナーは、厚生労働省科学研究で開発された
患者・市民参画カリキュラムに基づいた研修会です。



後援

一般社団法人 全国がん患者団体連合会
一般社団法人日本癌学会、一般社団法人日本癌治療学会、公益社団法人日本臨床腫瘍学会

みんなで創る! がん研究のための患者・市民参画研修会 (第1回)

プログラム

○司会：片山佳代子
(群馬大学情報学部准教授・研究分担者)

1 講義と演習：午前の部

9:30 開講の挨拶 ○研究代表者 有賀悦子(帝京大学医学部緩和医療学講座主任教授)
○戸石 輝(厚生労働省健康・生活衛生局がん・疾病対策課 相談支援専門官)

10:00-10:30 講義①

参画が医療を変える・建設的な意見交換をしてみよう

(参画-1・2)*

10:30-11:00 質疑応答

動画の内容を含む:様々な疑問を言葉に変えてみる

11:10-11:40 講義②

(研究-1・2)*

なぜ研究が必要なのか?研究がどのように立案されるのか学んでみよう

11:45-12:15 演習

患者・市民参画するために!自分が目指す参画について考えてみよう

○講師:

有賀悦子(帝京大学医学部緩和医療学講座主任教授)

渡邊清高(帝京大学医学部内科学講座教授)

片山佳代子(群馬大学情報学部准教授)

○ファシリテーター:

天野慎介・桜井なおみ・轟浩美(全国がん患者団体連合会理事)

高上祐子(小児脳腫瘍の会代表)

樋口麻衣子(富山AYA世代がん患者会Colors代表)

櫻井公恵(NPO法人 GISTERS 副理事長)

休憩・昼食時間

2 講義とグループワーク：午後の部

13:30-14:00 講義③ 研究と患者・市民参画について

(参画-1・2、研究-1)*

○講師：東島仁(千葉大学国際教養学部准教授)

14:10-15:30

グループワーク① 研究成果を読み解いてみよう

(研究-3・4)*

○講師：西森久和(広島市民病院血液内科部長) ○ファシリテーター：野田真由美(NPO法人支えあう会 [a] 副理事長)、他

グループワーク② 模擬研究倫理審査会参画を体験する

(参画-2、研究-2、EL-1)*

○講師：佐々木治一郎(北里大学医学部附属新世紀医療開発センター教授)

○ファシリテーター：矢後綾子(認定NPO法人オレンジティ 副理事長)、他

グループワーク③ 臨床研究プロトコルを読み解く

(研究-1~4、EL-1・2、統計-1)*

○講師：手塚順(医薬品医療機器総合機構) ○ファシリテーター：桜井なおみ(全国がん患者団体連合会理事)

15:40-16:30 各グループワークからの発表

16:35-17:00 総合討論

17:05 閉講の挨拶 ○江口英利(大阪大学大学院医学系研究科教授)

※厚生労働省が推進した患者・市民参画カリキュラム・コードを示しています。カリキュラム・コードはがん研究について効果的に学習するために開発された教育カリキュラムの6領域に付与されているコードになります。詳しくは研究HPをご覧ください。 <https://plaza.umin.ac.jp/ppi-ed/>

カリキュラムを用いた研修会の普及：動画の掲載



ホームページトップ画面

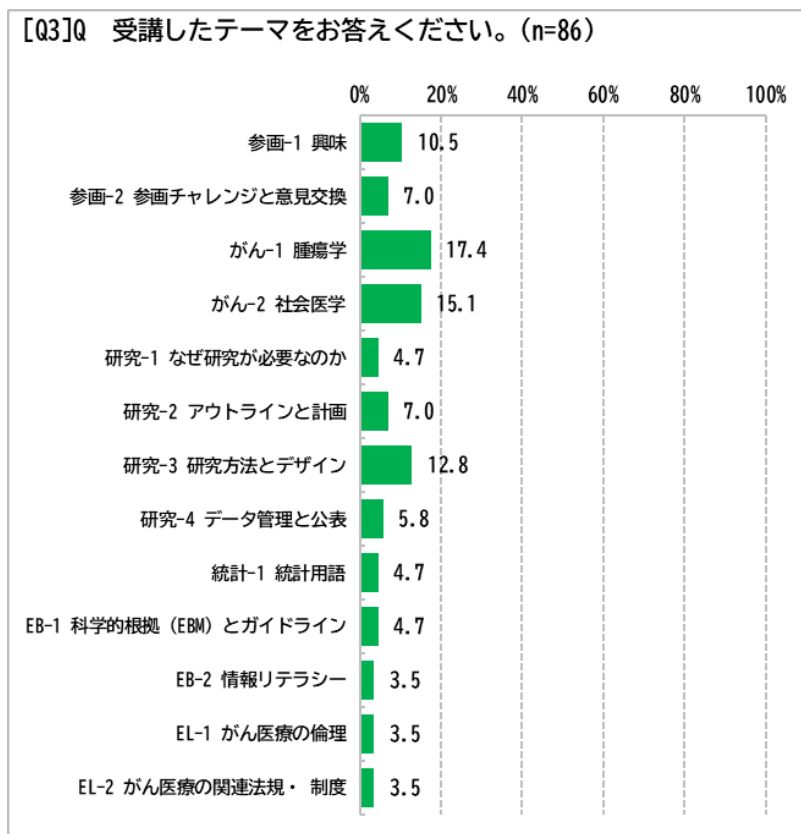


スマホ画面

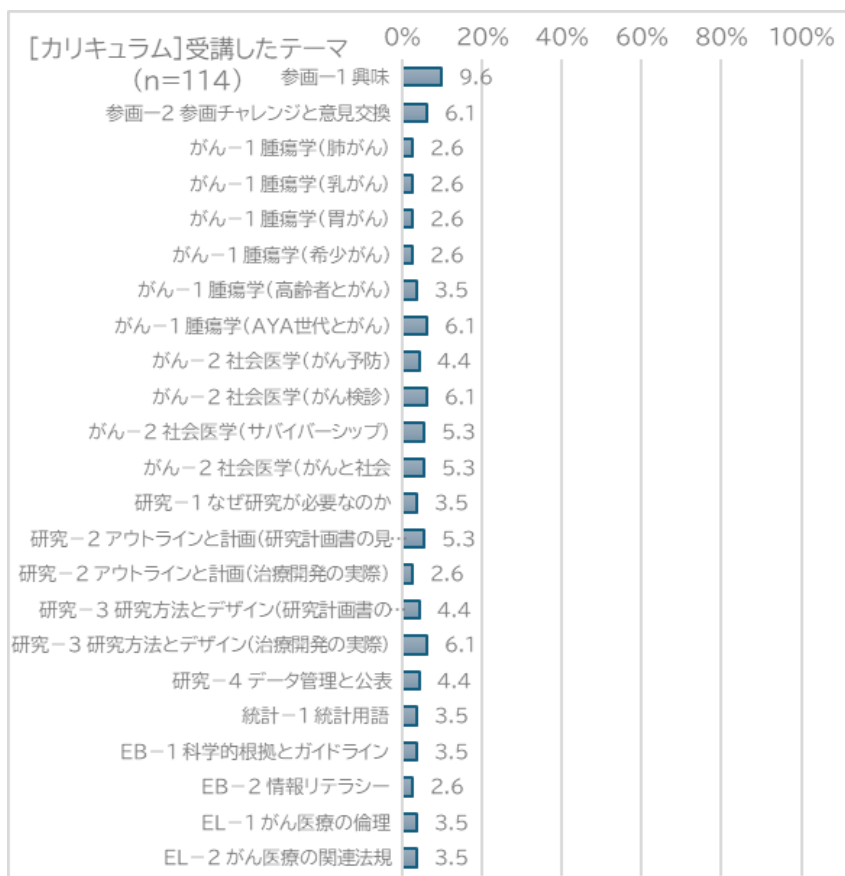


動画 (Web ラーニング) 評価

プレ調査



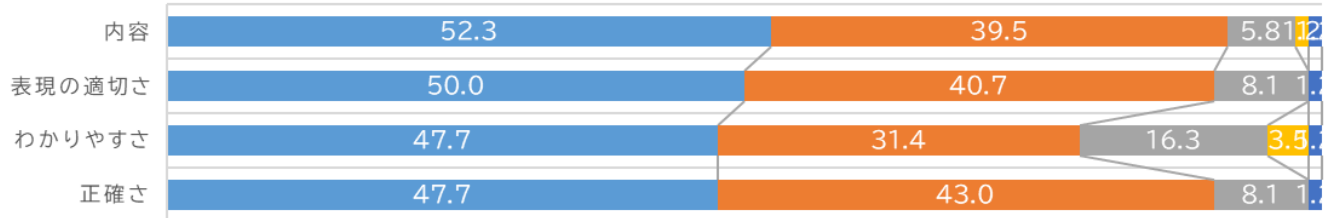
本調査



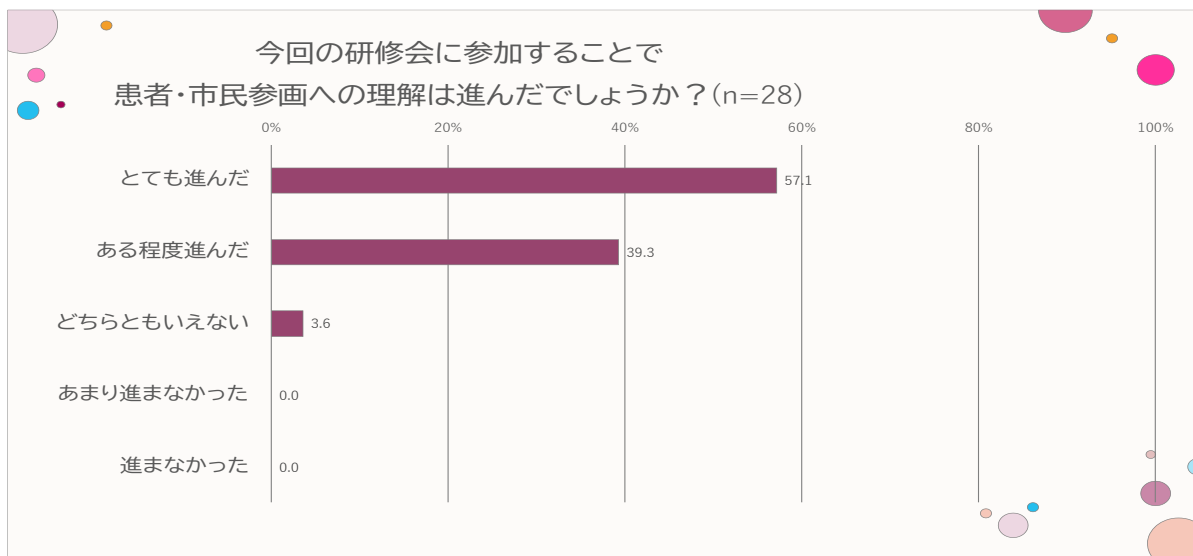
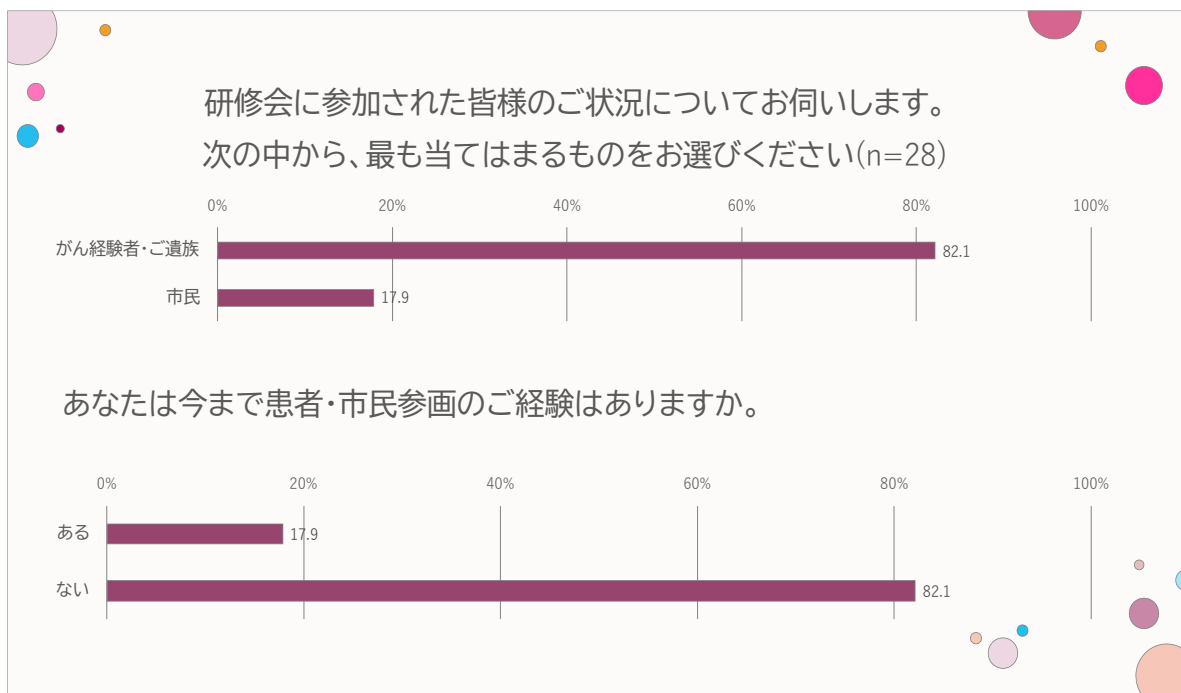
動画 23 本の全体評価

カリキュラム全体

- よく理解することができた
- まあまあ理解することができた
- どちらともいえない
- あまり理解することができなかった
- 全く理解できなかった



対面研修会の参加者評価



JSCO-PAP と JSMO-PAL の比較

	JSCO2024-PAL	JSMO2025-PAP
企画	学会の委員会・WG	外部委託（全がん連）
予算	学会委員会予算	学術集会
目的	日本のがん医療やがん患者さん・ご家族支援の質を向上させるためのリーダーとして活躍していただくことを目的	患者・家族・市民と会員が、正しい情報を共有し、課題を抽出、議論することで、より良いがん医療の実現につながっていくことを目的
学術集会 一般プログラム聴講	可（制限あり）	可（制限あり）
PPI関連プログラム	模擬倫理審査委員会、アンケート調査作成ワークショップ、PALセミナー、ポスター発表	臨床試験プロトコル解読ワークショップ、PAP基礎講座、PAP応用講座、PAP特別企画
付与コード	がん-1、がん-2、研究-1、研究-2、研究-3、研究-4、参画-1、参画-2、EB-2、EL-1	がん-1、研究-1、研究-2、研究-3、研究-4、参画-1、EL-1、EL-2

令和7年 3 月 31 日

厚生労働大臣
~~(国立医薬品食品衛生研究所長)~~ 殿
~~(国立保健医療科学院長)~~

機関名 学校法人 帝京大学

所属研究機関長 職 名 理事長

氏 名 冲永 佳史

次の職員の令和6年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 がん対策推進総合研究事業
2. 研究課題名 がん研究に患者・市民参画を実現するための患者・市民に対する教育カリキュラム・プログラムの開発に関する研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 医学部緩和医療学講座・主任教授
(氏名・フリガナ) 有賀悦子・アルガエツコ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称：)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣 殿

機関名 国立大学法人大阪大学

所属研究機関長 職 名 大学院医学系研究科長

氏 名 熊ノ郷 淳

次の職員の令和 6 年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 がん対策推進総合研究事業

2. 研究課題名 がん研究に患者・市民参画を実現するための患者・市民に対する教育カリキュラム・プログラムの開発に関する研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 大学院医学系研究科 教授
(氏名・フリガナ) 江口 英利 (エグチ ヒデトシ)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

大阪大学医学系研究科では、厚生労働科学研究費補助金に係る承諾書等について以下のとおり取扱っております。

I. 厚生労働科学研究費補助金の研究実施承諾書・倫理審査状況及び利益相反等報告書について

本学では、厚生労働科学研究費補助事業の研究実施の承諾については、従来より研究者が所属する各部局長より行なっております。

これは「大阪大学教授会通則」第4条に基づき、各部局の教授会が各部局の教育・研究に関する重要事項の決定権を有しているため、教授会の責任者である部局長が研究実施に対する承諾権限を有しているとみなしているためです。

そのため、大阪大学医学系研究科に所属している研究者の研究実施の承諾は医学系研究科長より行っております。

同様に、倫理審査状況及び利益相反等報告書についても医学系研究科長名にて発行しております。

II. 厚生労働科学研究費補助金の管理及び経理事務委任に対する承諾書について

本学では、「厚生労働科学研究費補助金における事務委任について」（平成13年7月5日厚科第332号厚生科学課長決定（平成29年3月31日 最新版））に基づき、補助金の管理及び経理事務について、所属機関の長の責のもと、その機関において行うこととしております。

なお当該事務について、「国立大学法人大阪大学における公的研究費の取扱いに関する規程」第6条に基づき、実質的な責任と権限を持つ者として、医学系研究科長への委任及び同研究科長よりの承諾を行っております。

III. 厚生労働科学研究費補助金の受領委任に関して

本学では、「厚生労働科学研究費補助金における事務委任を行った場合の国庫補助金の受領の委任について」（平成13年10月25日厚科第472号厚生科学課長決定（令和3年1月21日 最新版））に基づき、「国立大学法人大阪大学研究費補助金取扱要項」第6条により、補助金の受領について、所属機関の長（学長）への委任及び同長よりの承諾を行っております。

【参考】大阪大学規程集 https://www.osaka-u.ac.jp/jp/about/kitei/reiki_taikei/r_taikei_01_05.html

大阪大学教授会通則

（審議事項等）

第4条 教授会は、総長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり教育研究に関する専門的な観点から意見を述べるものとする。

- (1) 学生の入学、卒業及び課程の修了に関すること。
- (2) 学位の授与に関すること。
- (3) 教育課程の編成等に関すること。
- (4) 学生の除籍及び懲戒に関すること。
- (5) 教員の人事に関すること。
- (6) 組織の長の選考及び解任に関すること。
- (7) 称号の付与に関すること。
- (8) 教育研究組織の再編に関すること。
- (9) 共同研究講座等の設置に関すること。
- (10) 諸規程の制定及び改廃に関すること。
- (11) 概算要求に関すること。

2 教授会は、前項に規定するもののほか、総長及び学部長その他の教授会が置かれる組織の長（以下この項において「総長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び総長等の求めに応じ、教育研究に関する専門的な観点から意見を述べることができる。

国立大学法人大阪大学における公的研究費の取扱いに関する規程 抜粋

（部局等管理責任者）

第6条 部局等（本部事務機構を含む。以下この条において同じ。）における公的研究費の運営及び管理について実質的な責任と権限を持つ者として部局等管理責任者を置き、当該部局等の長（本部事務機構にあっては、財務を担当する理事）をもって充てる。

国立大学法人大阪大学研究費補助金取扱要項 抜粋

（研究費補助金の経理事務の委任）

第6条 研究代表者等は、研究費補助金の交付内定（継続分を含む。）を受け、研究費を受領する場合は、学長にその受領を委任したものとし、経理に関する事務を所属する部局長に委任したものとみなす。

ただし、受領委任について配分機関から別途定めがある場合は、その定めにより取り扱うものとする。

厚生労働大臣
—(国立医薬品食品衛生研究所長) 殿
—(国立保健医療科学院長)—

機関名 日本医科大学武蔵小杉病院

所属研究機関長 職 名 院長

氏 名 谷合 信彦

次の職員の令和5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 がん対策推進総合研究事業
2. 研究課題名 がん研究に患者・市民参画を実現するための患者・市民に対する教育カリキュラム・プログラムの開発に関する研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 腫瘍内科 教授
(氏名・フリガナ) 勝俣範之 カツマタノリュキ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣
—(国立医薬品食品衛生研究所長) 殿
—(国立保健医療科学院長)—

機関名 国立大学法人九州大学

所属研究機関長 職 名 総長

氏 名 石橋 達朗

次の職員の令和5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 がん対策推進総合研究事業
2. 研究課題名 がん研究に患者・市民参画を実現するための患者・市民に対する教育カリキュラム・プログラムの開発に関する研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 九州大学病院別府病院外科・教授
(氏名・フリガナ) 三森 功士・ミモリ コオシ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣

機関名 東京医科大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 宮澤 啓介

次の職員の令和6年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 がん対策推進総合研究事業

2. 研究課題名 がん研究に患者・市民参画を実現するための患者・市民に対する教育カリキュラム・プログラムの開発に関する研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 医学教育学・客員教授
(氏名・フリガナ) 大滝 純司 (オオタキ ジュンジ)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

厚生労働大臣
~~(国立医薬品食品衛生研究所長) 殿~~
~~(国立保健医療科学院長)~~

機関名 学校法人 帝京大学

所属研究機関長 職 名 理事長

氏 名 沖永 佳史

次の職員の令和6年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 がん対策推進総合研究事業
2. 研究課題名 がん研究に患者・市民参画を実現するための患者・市民に対する教育カリキュラム・プログラムの開発に関する研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 医学部内科学講座(腫瘍内科)・教授
(氏名・フリガナ) 渡邊清高・ワタナベキヨタカ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入(※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査(※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他(特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

2025年 2月 21日

厚生労働大臣 殿

機関名 国立大学法人群馬大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 石崎 泰樹

次の職員の令和 6 年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 がん対策推進総合研究事業
2. 研究課題名 がん研究に患者・市民参画を実現するための患者・市民に対する教育カリキュラム・プログラムの開発に関する研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 情報学部・准教授
(氏名・フリガナ) 片山佳代子・カタヤマカヨコ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	群馬大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称：)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 7 年 4 月 1 日

厚生労働大臣
~~(国立医薬品食品衛生研究所長) 殿~~
~~(国立保健医療科学院長)~~

機関名 国立研究開発法人国立がん研究センター

所属研究機関長 職 名 理事長

氏 名 間野 博行

次の職員の令和 6 年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 がん対策推進総合研究事業
2. 研究課題名 がん研究に患者・市民参画を実現するための患者・市民に対する教育カリキュラム・プログラムの開発に関する研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) がん対策研究所データサイエンス研究部・部長
(氏名・フリガナ) 片野田 耕太・カタノダ コウタ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 7年 3月 4日

厚生労働大臣
—(国立医薬品食品衛生研究所長) 殿
—(国立保健医療科学院長)—

機関名 キャンサー・ソリューションズ株式会社

所属研究機関長 職 名 代表取締役社長

氏 名 桜井 なおみ

次の職員の令和6年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 がん対策推進総合研究事業

2. 研究課題名 がん研究に患者・市民参画を実現するための患者・市民に対する教育カリキュラム・プログラムの開発に関する研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 代表取締役社長
(氏名・フリガナ) 桜井 なおみ ・ サクライ ナオミ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。